

保証書

保証期間	対象部品	期間 (お渡し日より)
お引渡し日	本体	2ヶ年
お客様	住所	平成 年 月 日
	お名前	様
	電話	

施工店	住所・店名
	電話 ()

お引渡し日、お客様名、施工店名が不明の場合、保証しかねますので施工店に必要事項の記入をご依頼ください。又本書は再発行致しませんので大切に保管してください。

保証の対象

カーポート「つばさくん」本体といたします。

保証内容

取扱説明書・表示ラベルまたはその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に発生した不具合については、下記に例示する免責事項を除き、無料修理いたします。

保証期間

当該製品の施工完了日 (お引渡し日) から起算して2年間。

免責事項

保証期間内でも、次の様な場合には有料修理となります。

1. 取扱説明書や表示ラベル、カタログなどに記載された施工・取付け方法から逸脱したこと起因する不具合 (例えば、腐食促進のおそれがある海砂・急結材等を使用したモルタルによる腐食、基礎寸法や取付け寸法違いなどによる性能低下など)
2. 取扱説明書や表示ラベル、カタログなどに記載された使用方法から逸脱及び適切な維持管理を行わなかったことなどに起因する不具合 (例えば、中性洗剤以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食、雪おろしや操作上の注意などの注意シール内容の不励行による破損など)
3. 表示された商品の性能を超えた性能を必要とする地域や場所に取付けられた場合の不具合。(例えば、積雪強度、耐風圧強度、寒冷地での作動性や凍結に起因する不具合など)
4. 建築躯体や、外構工事、土間工事、電気工事などの商品以外に起因する不具合。
5. 商品又は部品の経年変化 (使用に伴う消耗・磨耗など。ひび割れ、変色、ネジ、ボルトの緩みや釘の浮きなど) またはこれらに伴う不具合。
6. 自然現象や住環境に起因する結露などに起因する不具合 (例えば、結露による凍結、コケ、さび発生などの汚れなど)
7. 環境が特に悪い地域又は場所に取付けられたことに起因する腐食及び不具合 (例えば、海岸地帯での塩害や大気中の砂塵・煤煙・金属粉・亜硫酸ガス・アンモニア・車の排気ガスなどの付着によって起きる腐食や塗装剥離、異常な高温・低温・多湿による不具合など)
8. 天災その他の不可抗力 (例えば、暴風・豪雨・洪水・高潮・地震・地盤沈下・落雷・火災など) により商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合。
9. 実用化されている技術では予測不可能な現象またはこれが原因で生じた不具合。
10. 犬、猫、取、ねずみ、虫など小動物の害、又はつるや根などの植物の害による不具合。
11. 使用者や第三者による不当な修理や改造 (必要部品の取外し含む) に起因する不具合。
12. 本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合。又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合。
13. 犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合。
14. 屋根高さ調整による、柱や屋根にスリキズ等が生じた不具合。

* 保障期間経過後の修理・交換などは有料といたします。

* 本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合はお問い合わせください。

高さ3段調整式カーポート 『つばさくん』

調整式・固定式共通 取扱説明書

※1部調整式のみ対応となりますのでご注意ください。

施工後、施工主に必ず御渡しく下さい。
すぐ取り出せる場所に大切に保管してください。

このたびは、当社商品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。お読みになった後もすぐ取り出せる場所に大切に保管してください。説明書に書かれている注意事項は、必ず守ってください。不適切な使用により事故が生じた場合、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■安全のため必ずお守りください。

この安全上の注意をよくお読みの上、正しくお使いください。ここに示した注意事項は、守らないと人身事故及び家財の損害に結びつくものです。安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

用語の説明

- ▲ **警告** 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
- ▲ **注意** 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うまたは物的障害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
- ▲ **お願い** 「取扱いを誤った場合に、製品の損傷または故障のおそれがある内容を示しています。」
- ▲ **補足** 「説明も内容で知っておくと便利なことを示しています。」

警告

- アルミ商品と銅板やガラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニールテープ等を貼るか塗装等絶縁処理をしてください。
- 腐食の恐れのある接着剤や化学製品を使用する場合には、商品と接触しないようにするか部分を完全に養生してください。
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり、改造は行わないでください。思わぬケガをすることがあります。
- 作業を行う時はスベリ止めの付いた手袋をしてください。

「施工の前に」

注意

- 製品の施工には、危険が伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しい施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 当製品は簡易型車庫です。物置・遊び場あるいは住居の一部等への転用を目的として、みだりに改造・変更をしないでください。
- 積雪 (新雪) 20cmを超えない地域に設置してください。
- 建物の屋根から雪の落雪を直接受けない位置に設置してください。
- 強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上等の施工は避けてください。
- 施工場所に寸法的に正しく納まるかどうか確認してください。
- 給湯機や暖房機等の熱排気が製品に当たらないように施工してください。排気による塗装劣化。はくりのおそれがあります。
- 給湯機や暖房機等の熱排気が製品内にこもるような場所に施工しないでください。排気による中毒のおそれがあります。
- 傾斜地に設置する場合は、低い場所の埋め込み深さを確保してください。

「基礎工事について」.....

注意

- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって（軟弱な地盤等）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- 寒冷地で凍上するおそれもある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- モルタルやコンクリートには、塩分を含む砂（海砂）および塩素系強アルカリのコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤等）は、使用しないでください。使用するとアルミ等の金属が腐食する原因になります。必要場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 柱内の水抜きができるよう、基礎には必ず碎石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴（φ10）をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
- モルタルやコンクリート等が製品の表面に付着した場合、速やかに拭取ってください。シミやムラ等の外観不良の原因になります。

「施工上の注意」.....

注意

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服及び保護服（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業で安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業が相互安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 柱の移動は当社指定範囲内にしてください。
- 【使用上の注意】ラベルを貼っている柱に雨樋を取付けると、表示が見えなくなります。雨樋を取付けない側に表示ラベルを向けてください。
- ボルト、ネジは当社指定品を指定本数使用し、ゆるまないように締付け固定してください。
- アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 製品の改造や、指定箇所以外の穴加工はしないでください。
- 製品についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は、補修塗料で補修してください。
- 水漏れのおそれがありますので、指定の箇所にシーリングをしてください。
- シリコンシーリング材は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、脱アルコール系シーリング材を使用してください。

「施工の後に」.....

注意

- ボルト、ネジを増し締めしてください。
- 取扱説明書は施主様にお渡しください。

■使用方法

「風に対する仕様について」.....

注意

- 風速は、設置する地域・場所・風向きなどの環境により異なります。
- 日頃風当たりの強い場所に設置した場合、強風時の屋根のバタツキを緩和するオプションのサポートを常時使用してください。
- 建物により柱側に風が抜けなくなる場合、強風時の屋根のバタツキを緩和するオプションのサポートを常時使用してください。

「積雪に対する仕様について」.....

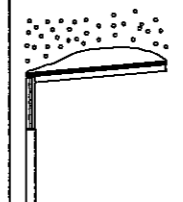
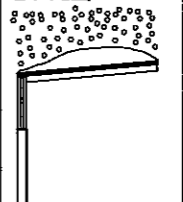
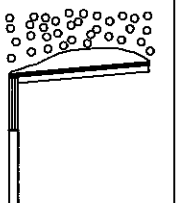
注意

- 表の積雪量になる前に必ず雪おろしをしてください。屋根材が雪の重さでつぶれ落ちるおそれがあります。
- 雪の重さによる一時的な屋根の垂れ下がりやを緩和するためには、オプションのサポートを使用してください。

お願い

- 柱に貼付けている雪おろし注意シールにしたがって雪をおろしてください。
- 雪の重さは雪の状態によって大きく変化します。特に春先の雪は新雪に比べて重くなりますので表の積雪量の目安よりも早めに雪おろしをしてください。
- 雪おろしの際、雪はできるだけ残さないようにしてください。残った雪が氷状になり、たいへん重くなります。
- 雪おろしの際、絶対に水をかけないでください。雪が氷状になり、さらに重くなります。
- 雪おろしの際、金属製スコップ等を使用すると屋根材が割れたり、傷付く原因になります。プラスチック製スコップ等で静かに行なってください。

表 耐積雪荷重と積雪量の目安

	雪の種類		
	新雪	しまりゆき	ざらめゆき
	新雪	締雪	粗目雪
	新しく降った粉状の雪	水分を含んだやや重い雪 降り積もって圧縮された雪	水分を含んで凍っていて粒の大きな雪
			
	雪比重 0.3	雪比重 0.5	雪比重 0.7
耐積雪荷重	安心してお使いいただける積雪量の目安		
600N/m ² (61.2kg/m ²)	20cm	12cm	8cm

補足

- 本製品は、表の荷重に耐えるように設計しています。
 - ・この性能は弊社で指定する基礎の大きさ等の施工指示どおりに施工した場合に限ります。
 - ・設置する地域により積雪量の違いを想定して強度を分類して設計しています。
- 雪の種類は、「日本雪氷学会の分類名称」によります。

「ご注意とお願い」.....

注意

- 屋根材に火を近づけないでください。
- 弊社指定の付属品以外は取付けしないでください。
- ボルト・ナット・ネジ等は絶対にゆるめないでください。
- 製品の分解や改造は絶対にしないでください。

お願い

- 製品に関する移設、増設等は、お買い求めの工務店・販売店にご相談ください。

■お手入れについて

「本体の清掃」.....

年に2~3回水荒いをして拭きとってください。

- ・汚れが軽い場合は水で濡らした布で拭き、乾かしてください。
- ・汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めた液で汚れを落したあとで、洗剤が残らないようによく水荒いをして拭きとってください。

お願い

- ブラシは使用しないでください。キズがつくおそれがあります。
- シンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。材料が変形したり、塗装がはげることがあります。

「点検とキズの補修」.....

お願い

- 定期的（年一回程度）にボルトのゆるみを点検し、締め直してください。
- アルミ材表面にあやまってキズをつけた場合は、弊社純正補修塗料で補修してください。放置すると腐食の原因になります。

「樋の清掃方法」.....

注意

- ドレンエルボキャップを取外すときに、ほこりや泥水があふれ落ちるおそれがあります。
- 衣服についたり、また目や口に入らないように注意してください。

- ・ドレンエルボキャップを両手で取外して、たまった落ち葉やほこりを取除いてください。
- ・落ち葉やほこりを取除いた後は、両手でしっかりと取付けてください。

お願い

- 樋にたまった落ち葉やほこりは定期的に取り除いてください。樋が詰まって雨水が雨樋からあふれ落ちる恐れがあります。

INDEX

■各部の名称	9
■基本寸法	10~12
■基本施工方法	13~22
① 柱の組立（調整式のみ）	13
② 基礎の施工	14,15
③ 柱と梁の取付け	16
④ 前枠・母屋・後枠の取付け	17
⑤ 側枠の取付け	18
⑥ 垂木の取付け	19
⑦ 雨樋アタッチメント・雨樋穴ふさぎキャップの取付け	19
⑧ 屋根材の取付け	20
⑨ 側枠カバー・垂木カバーの取付け	20
⑩ 雨樋の取付け	21
⑪ 屋根高さ調整本体・屋根高さ調整カバーの取付	22
■屋根高さの調整方法（調整式のみ）	23~26
⑫ 屋根高さ調整カバーの取外し及び取付け	23
⑬ 屋根高さ調整本体の取付け	24
⑭ 屋根高さの調整	25
⑮ 屋根高さ調整本体の取外し	26
■M合掌の施工方法	27~28
⑰ 基礎の施工	27
⑱ 合掌金具の組立	28
⑲ 合掌棟木の取付け	28
■Y合掌の施工方法	29
⑳ 基礎の施工	29
㉑ 本体の組立	29
■縦連棟の施工方法	29~31
㉒ 基礎の施工	29
㉓ 連結部の加工	30
㉔ 連結部の連結	31

梱包内容

調整式柱

●柱セット

品番	名称	略図	数量	
			調整式	固定式
1	柱(上)		2	2

品番	名称	略図	数量	
			調整式	固定式
2	柱(下)		2	

●屋根高さ調整セット (調整式柱のみ)

品番	名称	略図	数量
3	屋根高さ調整本体		2
5	屋根高さカバー端部部品		4
7	屋根高さ調整カバー取付ビス	M4x10トラス タッピングネジ	8

品番	名称	略図	数量
4	屋根高さ調整カバー		2
6	屋根高さ調整本体取付ビス	M5x10トラス タッピングネジ	22

●長さセット

品番	名称	略図	数量	
			調整式	固定式
8	前 枠		1	1
10	後 枠		1	1

品番	名称	略図	数量	
			調整式	固定式
9	母 屋		3	3
11	雨 樋	樹脂 L=2500 1本 アルミ L=3500 1本		

●幅セット (調整式・固定式)

品番	名称	略図	数量	
			調整式	固定式
12	側 枠		R-L各1	
14	側枠カバー			2

品番	名称	略図	数量	
			調整式	固定式
13	垂 木			6
15	垂木カバー			6

●ブラケットセット (調整式・固定式)

品番	名称	略図	数量
16	ブラケット		2

●梁セット (調整式・固定式)

品番	名称	略図	数量
17	梁		2

●屋根材セット (調整式・固定式)

品番	名称	略図	数量
18	屋根材		7

●部品セット

品番	名称	略図	数量	
			調整式	固定式
19	屋根 コーナー キャップ		R-L各2	R-L各2
21	梁 キャップ		2	2
23	柱(下) キャップ		2	
25	雨樋 アタッチ メント		1	1
27	アタッ メント パッキン		2	2
29	サドル		3	3
31	ドレン エルボ		1	1
33	柱(上) 梁取付 ボルト	M8x20	24	16
35	ワッシャー	M8 平 ワッシャー	24	16
37	母屋・前 枠取付 ビス	M5x10トラス タッピングネジ	16	16
39	梁キャ ップ取 付ビス	M4x16ナベ ガイド付き	4	4
41	柱(上)用 サドル 受け 取付 ビス	M4x30ナベ ドリルネジ	1	1
43	垂木カ バー 取付 ビス	M4x10トラス タッピングネジ	108	108

品番	名称	略図	数量	
			調整式	固定式
20	後枠止 水ス ポンジ		2	2
22	柱(上) キャ ップ		2	2
24	アン カー 棒		2	2
26	雨樋 穴ふ さぎ キャ ップ		1	1
28	エル ボ		2	2
30	サ ドル 受 け		3	3
32	接 着 材		1	1
34	柱(下) 取付 ボ ルト	M8x30	8	
36	柱(上) キャ ップ・ 後 枠 取 付 ネ ジ	M5x16トラス タッピングネジ	6	6
38	雨樋 穴 ふ さ ぎ カ ャ ッ プ 取 付 ビ ス	M4x10トラス タッピングネジ	4	4
40	側 枠 垂 木 取 付 ビ ス	M4x13ナベ ドリルネジ	44	44
42	柱(下) 用 サ ド ル 受 け 取 付 ビ ス	M4x20トラス タッピング3種	2	2
44	側 枠 カ バ ー 取 付 ビ ス	M4x10ナベ ドリルネジパッキン付	36	36

■ 梱包内容

● M合掌棟木セット (調整式・固定式)

品番	名称	略図	数量
45	合掌棟木		1

品番	名称	略図	数量
46	合掌取付材		5

● M合掌部品セット (調整式・固定式)

品番	名称	略図	数量
47	合掌端部カバー		2

品番	名称	略図	数量
48	合掌金具		4

品番	名称	略図	数量
49	合掌金具取付ボルト		16

品番	名称	略図	数量
50	合掌金具取付ナットワッシャー		16

品番	名称	略図	数量
51	合掌取付材取付ビス		10

品番	名称	略図	数量
52	合掌端部カバー取付ビス		4

● 連棟用幅セット (調整式・固定式)

品番	名称	略図	数量
53	垂木		1

品番	名称	略図	数量
54	垂木カバー		1

● 連棟用部材セット (調整式・固定式)

品番	名称	略図	数量
55	後枠スリーブ		1

品番	名称	略図	数量
56	前枠・母屋スリーブ		4

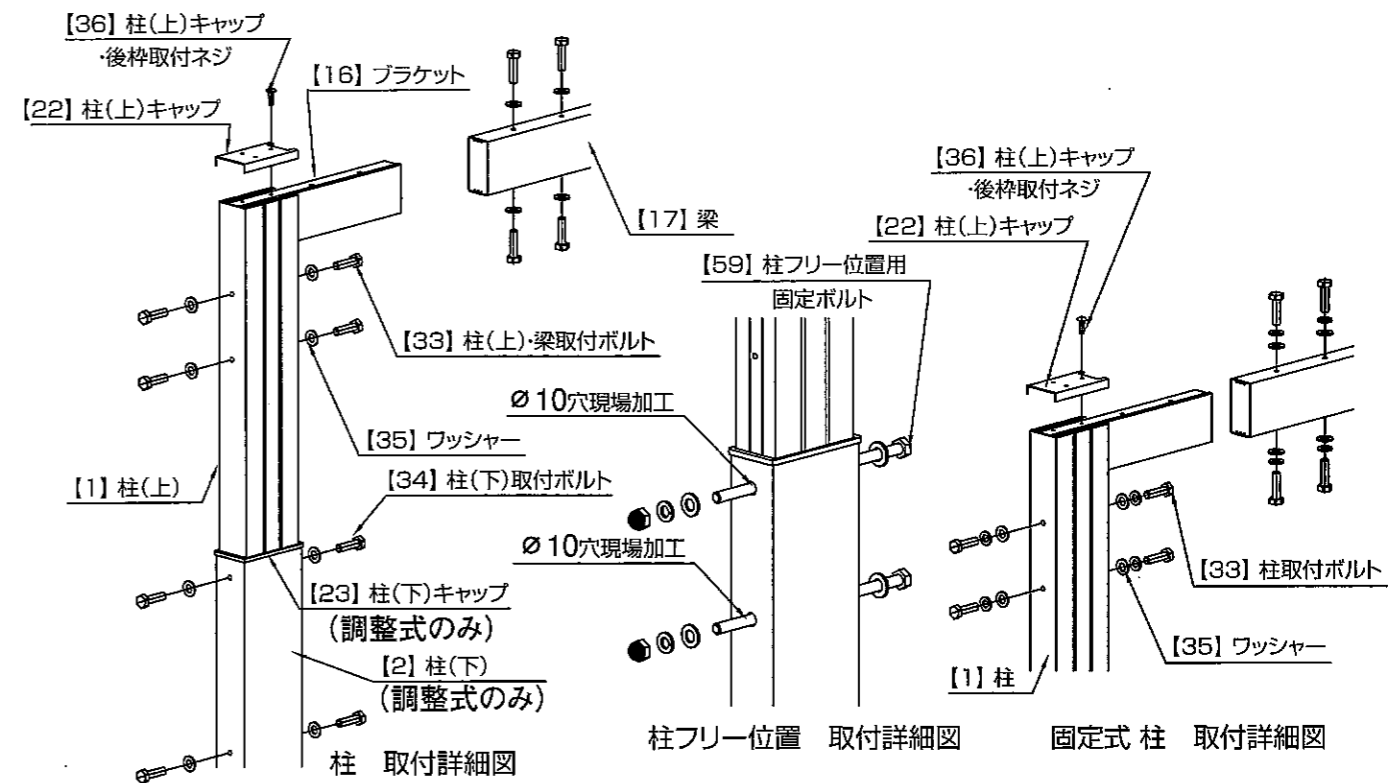
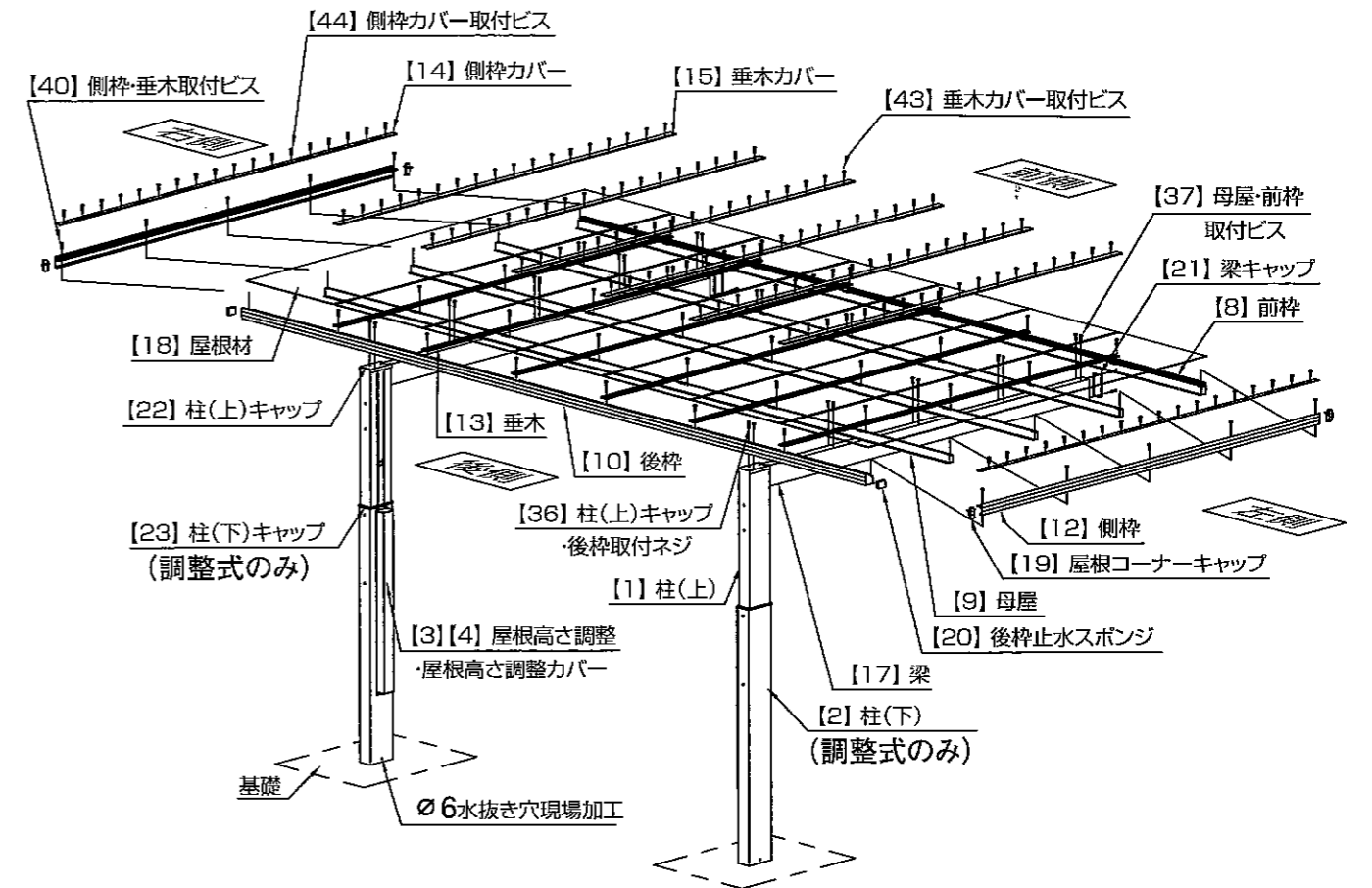
品番	名称	略図	数量
57	スリーブ・垂木取付ビス		45

品番	名称	略図	数量
58	垂木カバー取付ビス		18

● 柱フリー位置固定用セット (調整式)

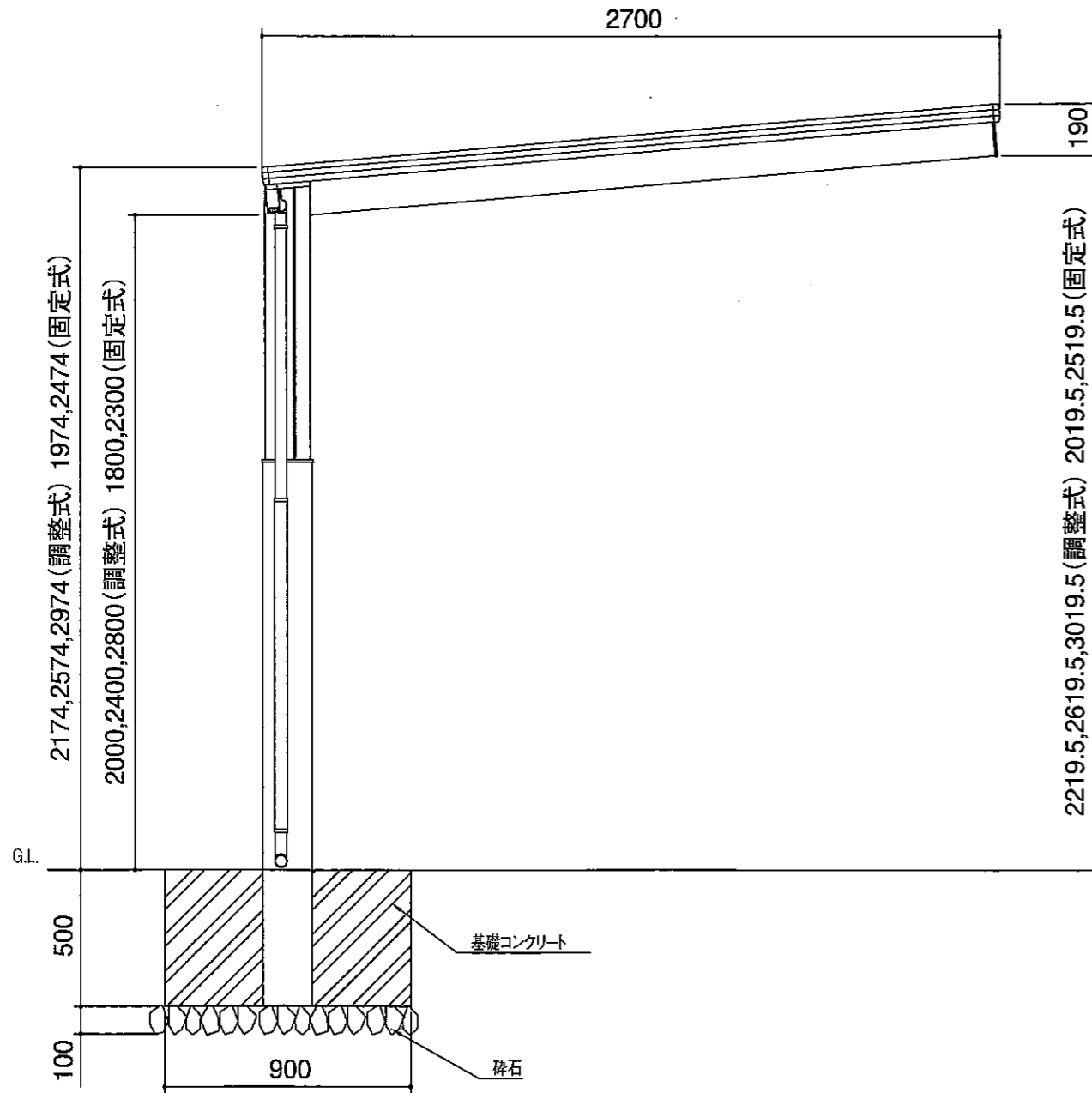
品番	名称	略図	数量
59	柱フリー位置用固定ボルト		4

■ 各部の名称

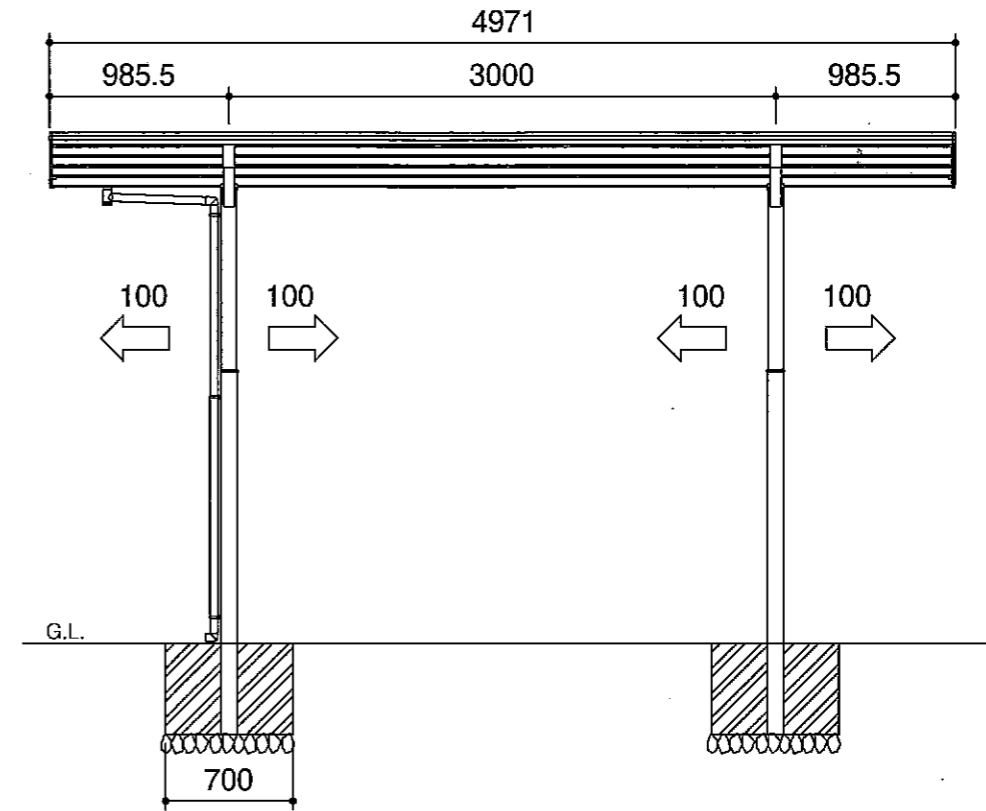


基本寸法

開口寸法

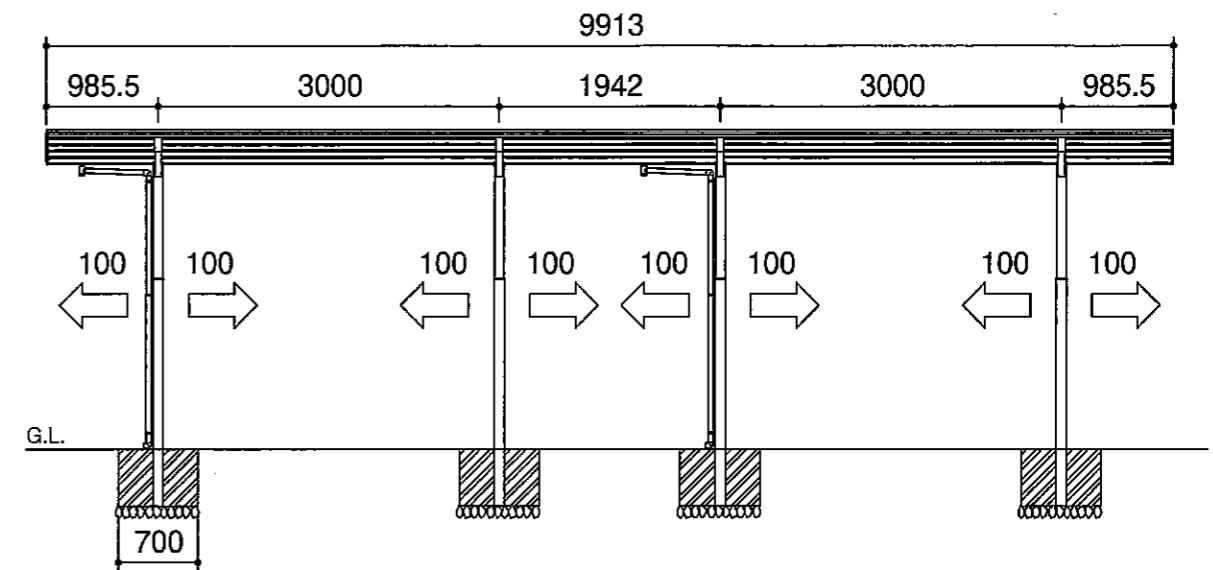


奥行き寸法



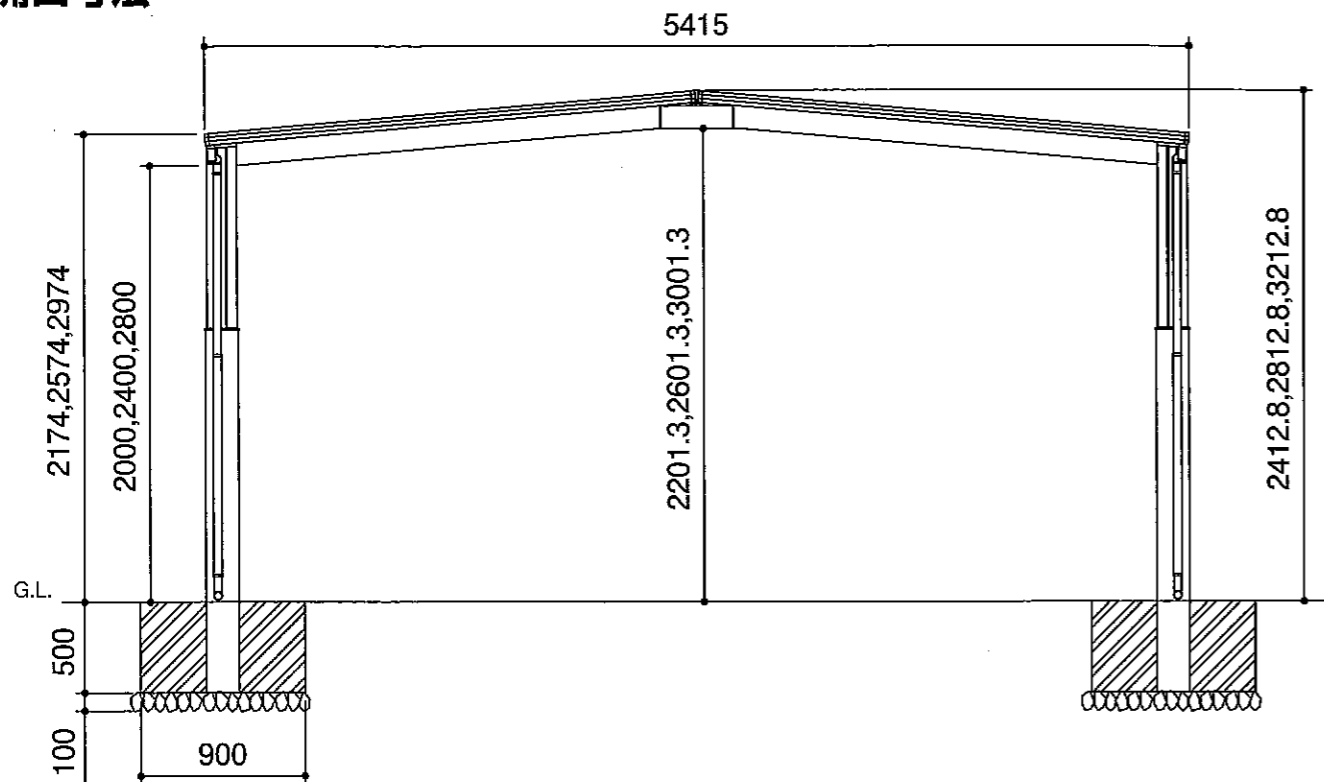
▲注意：柱の移動は±100mm以内ですが、柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

縦連棟タイプ



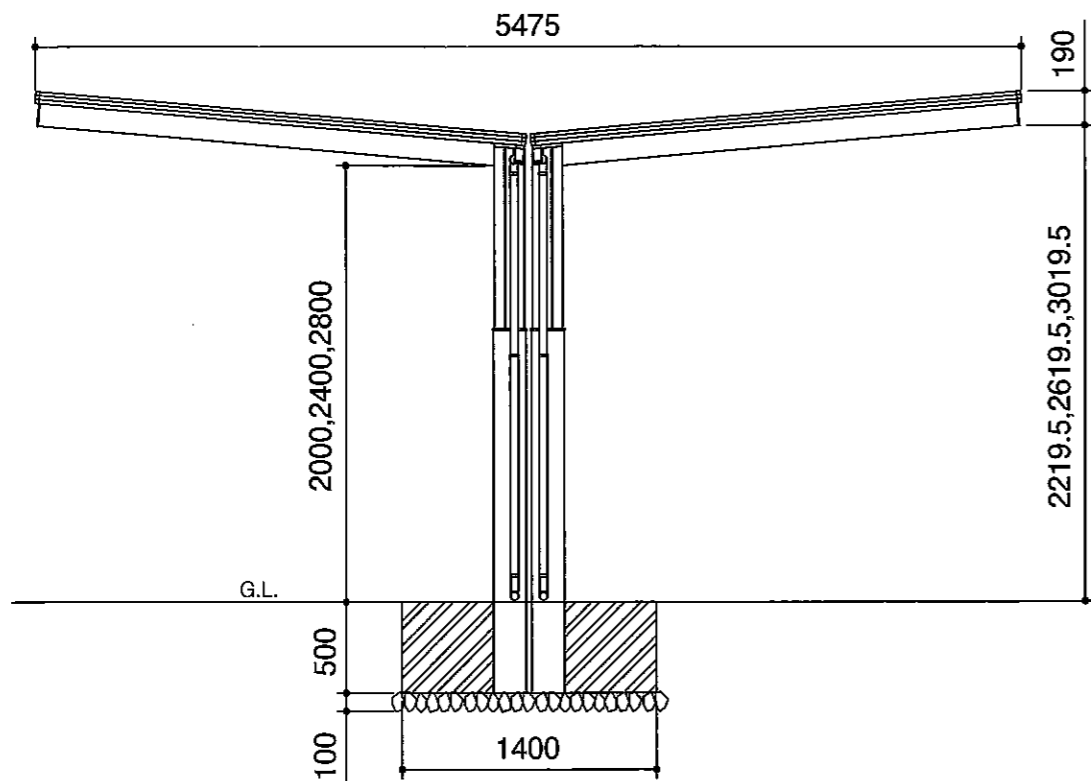
▲注意：柱の移動は±100mm以内ですが、柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

**M合掌タイプ
開口寸法**



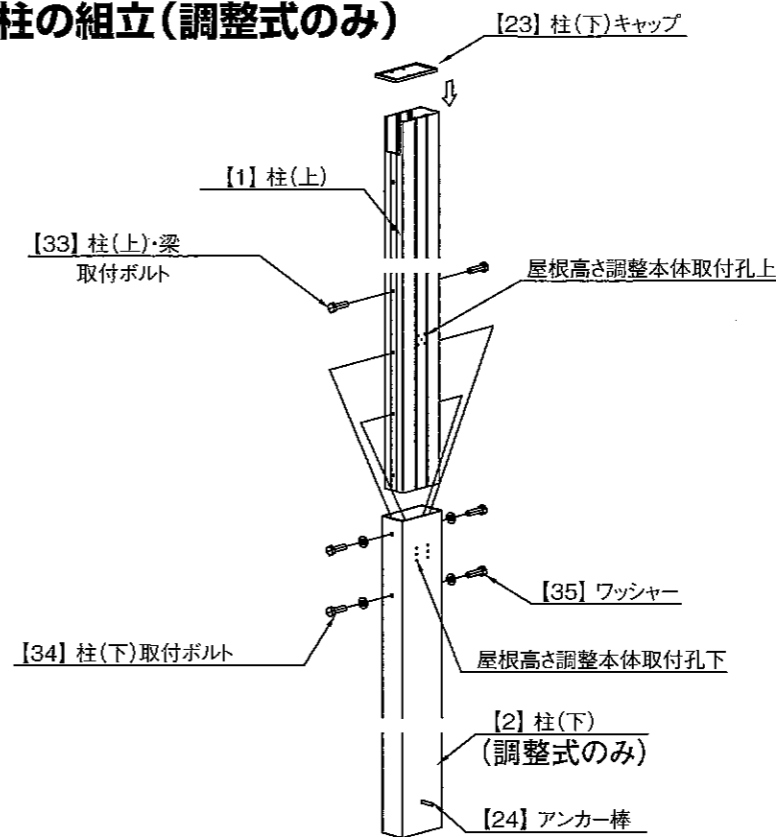
警告：M合掌には、延長・縦連棟はありません。

**背面合掌タイプ
開口寸法**



■基本の施工方法

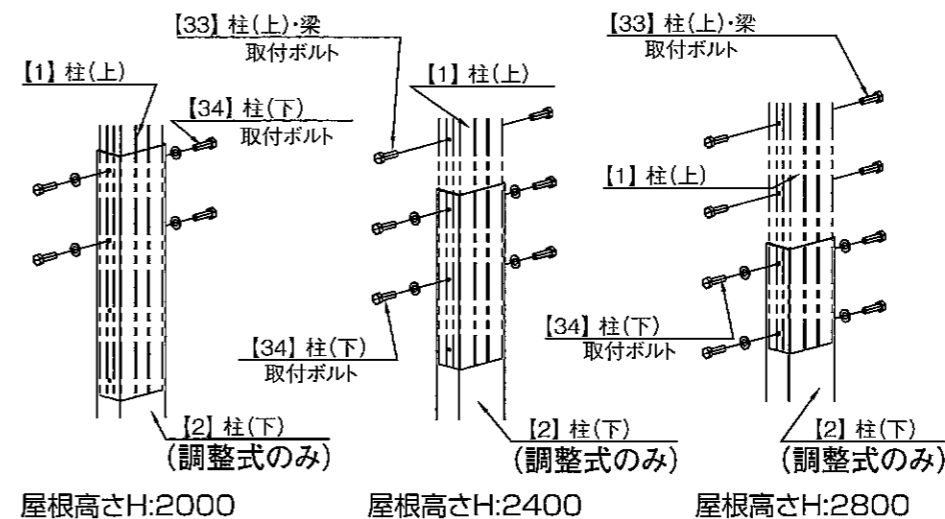
① 柱の組立(調整式のみ)



屋根高さに合わせて
組立てください。

- イ [2]下部に[24]を挿入してください。
- ロ [1]の屋根高さ調整本体取付孔上と[2]の屋根高さ調整本体取付孔下をそろえて[1]を[2]に挿入して[34]・[35]で[1]を[2]に固定してください。
- ハ [23]を[2]に取付けてください。
- ニ H:2400とH:2800の場合、[1]下部に[33]を取付けてください。

屋根高さをフリー位置にしたい場合は⑭屋根高さ調整を参照してください。

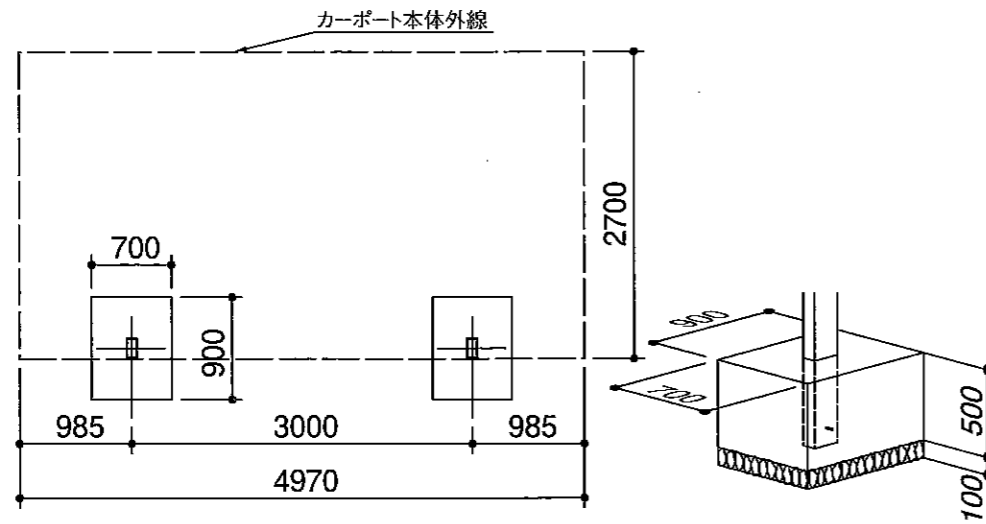


- 注意**：屋根高さをフリー位置に固定したい場合は、⑭屋根高さ調整屋根高さをフリー位置に調整した場合を参照して屋根高さを調整してください。
- 注意**：【1】屋根高さ調整本体取付孔上と【2】屋根高さ調整本体取付孔下を、そろえて【1】を【2】に挿入してください。
- 注意**：屋根高さに合わせて【1】を【2】に固定してください。
- 注意**：【34】で固定してください。
- 注意**：【1】下部に【33】を取付ける前に【23】入れてから取付けてください。

② 基礎の施工

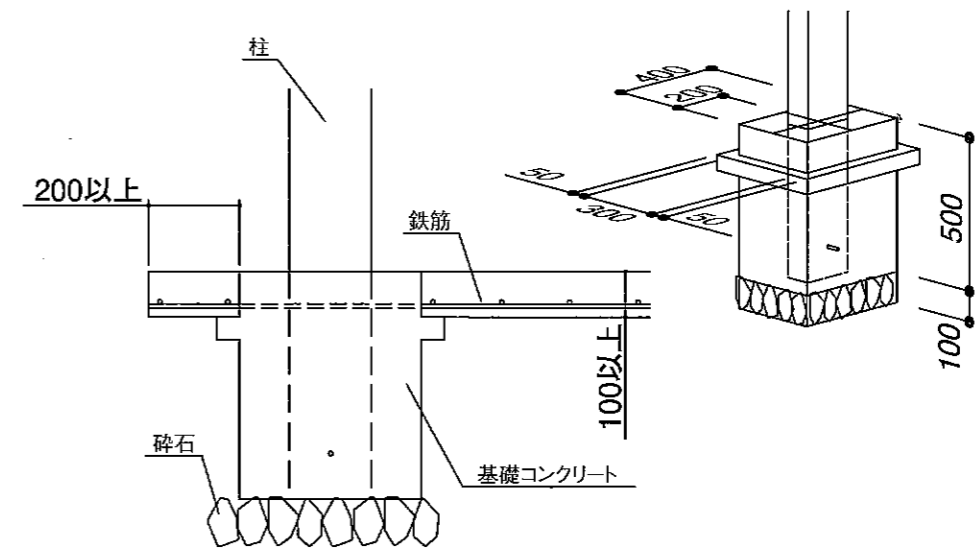
2-1 基礎位置の墨出し及び基礎寸法

柱の埋込み位置を出して基礎穴を掘ってください。



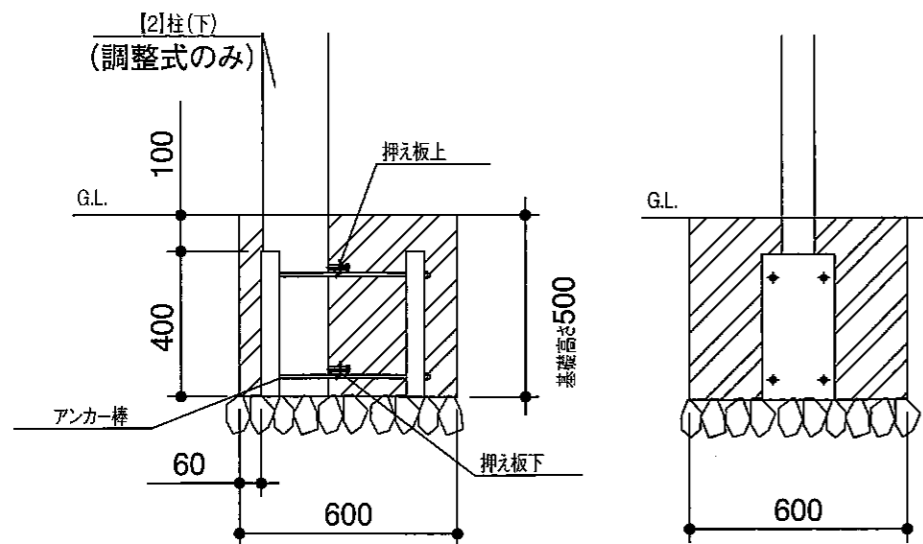
▲注意：柱の移動は±100mm以内ですが、柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

2-2 土間コンクリート併用基礎を使用した場合



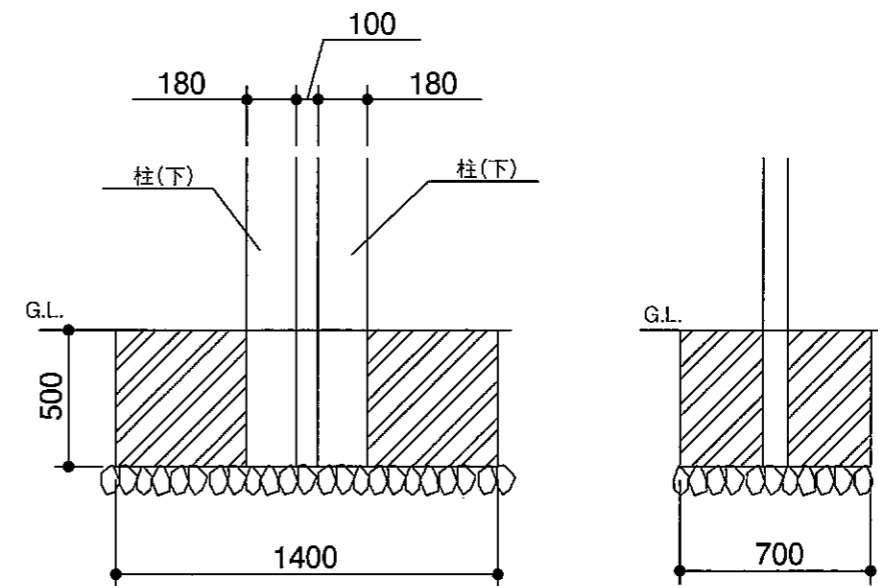
▲注意：注意:基礎上面と土間コンクリートの縁端距離は±200mm以上になるようにしてください。
▲注意：注意:土間コンクリートには、鉄筋を敷設してください。

2-1 偏芯基礎部材を使用の場合



▲注意：柱の移動は±100mm以内ですが、柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

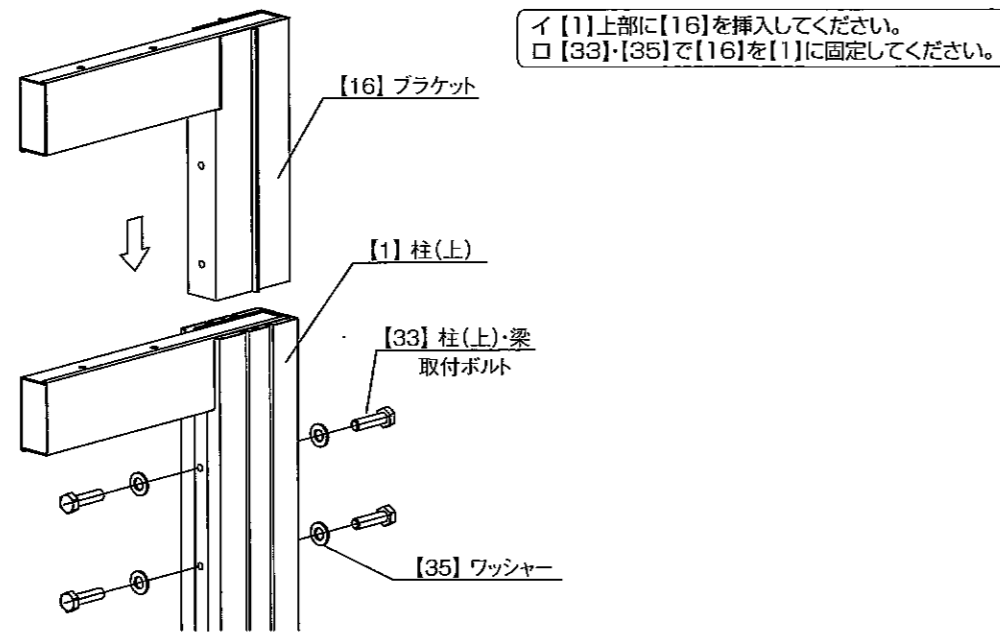
2-3 Y合掌の場合



▲注意：注意:柱の移動は±100mm以内ですが、柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。
▲注意：土間コンクリートの場合は、600mmx400mmになります。

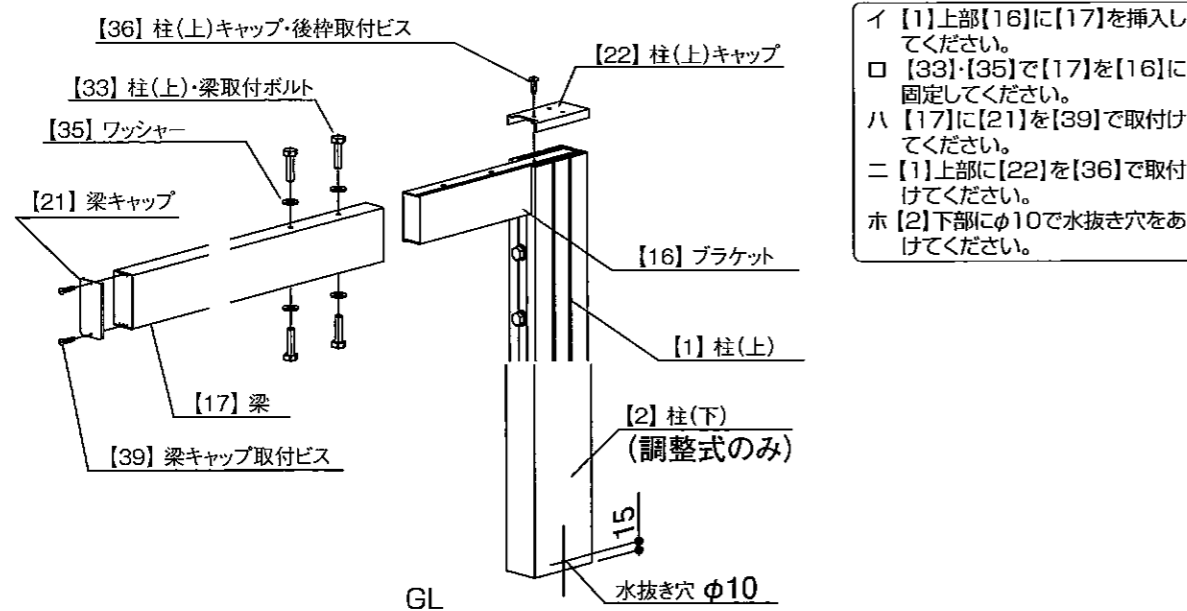
③ 柱と梁の取付け

3-1 ブラケットの取付け



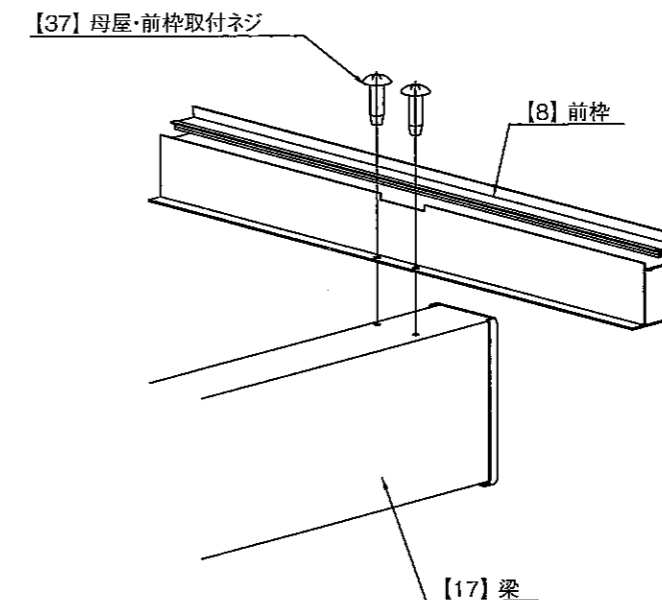
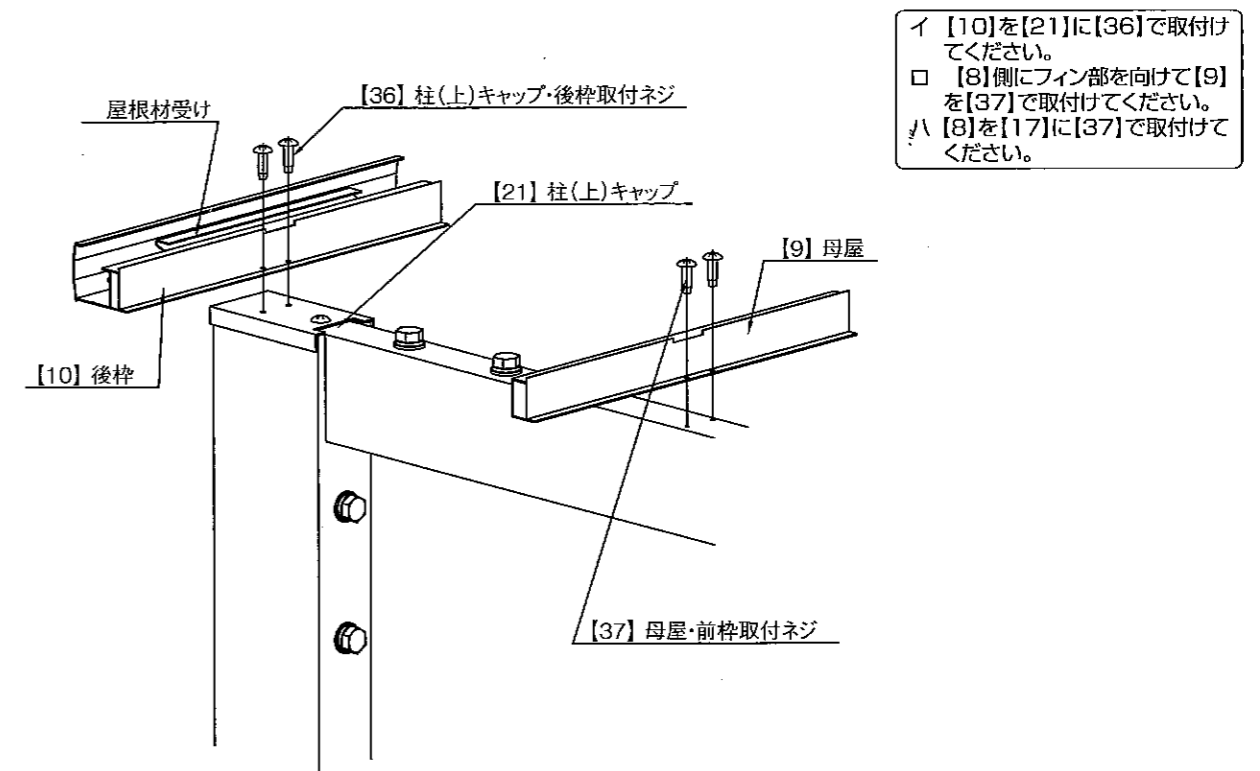
▲ 注意：【16】を【33】・【35】で【1】に固定してください。

3-2 梁と柱キャップの取付け



▲ 注意：柱のGL付近(地上側)φ10で水抜き穴をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。

④ 前枠・母屋・後枠の取付け

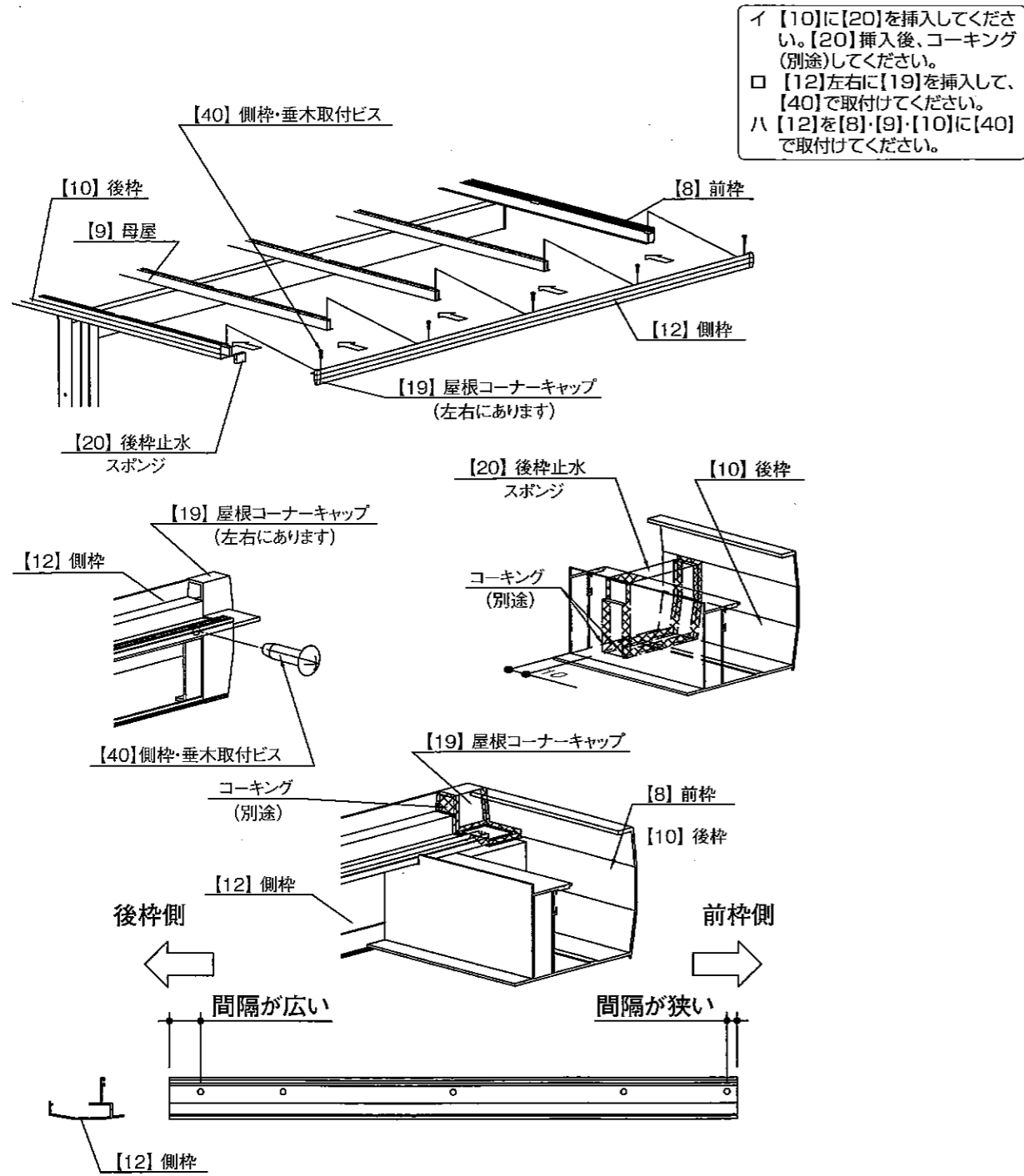


▲ 注意：屋根材受けを【10】の切欠きと切欠きの間に均等になるように移動させてください。

▲ 注意：【10】を【36】で、【8】・【9】は【37】で取付けてください。

▲ 注意：柱を移動した場合は、【8】・【9】・【10】を【17】に合わせてφ6の穴加工を行なってください。

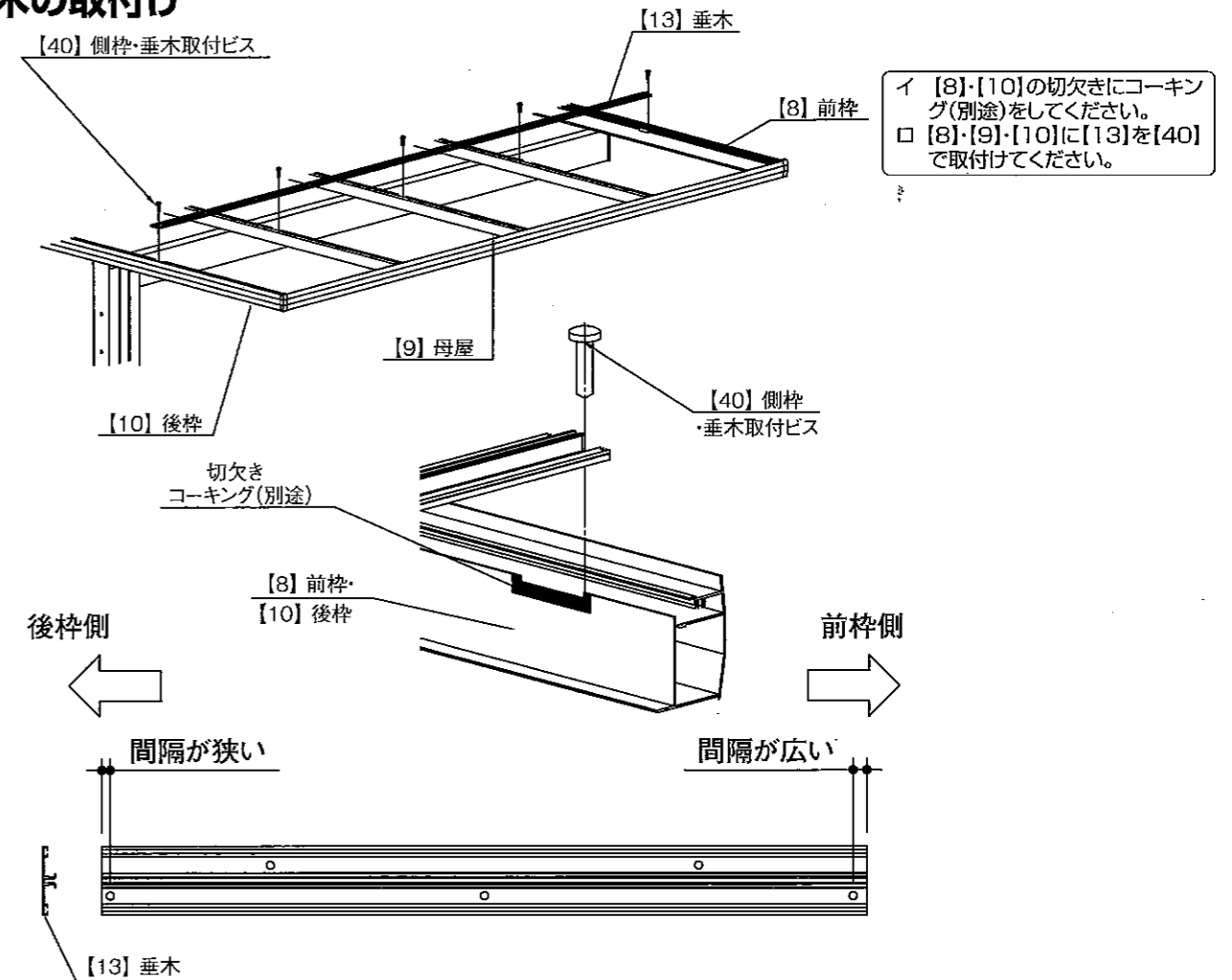
⑤ 側枠の取付け



イ 【10】に【20】を挿入してください。【20】挿入後、コーキング(別途)してください。
ロ 【12】左右に【19】を挿入して、【40】で取付けてください。
ハ 【12】を【8】・【9】・【10】に【40】で取付けてください。

- ▲注意：【10】に【20】を挿入後、コーキング(別途)してください。
- ▲注意：【20】にコーキング(別途)後、【12】の取付方向に注意して【40】で取付けてください。
- ▲注意：【8】・【9】・【10】上面のV溝に【40】を取付けてください。
- ▲注意：【12】取付後、【8】・【12】・【19】と【10】・【12】・【19】・【20】にコーキング(別途)してください。

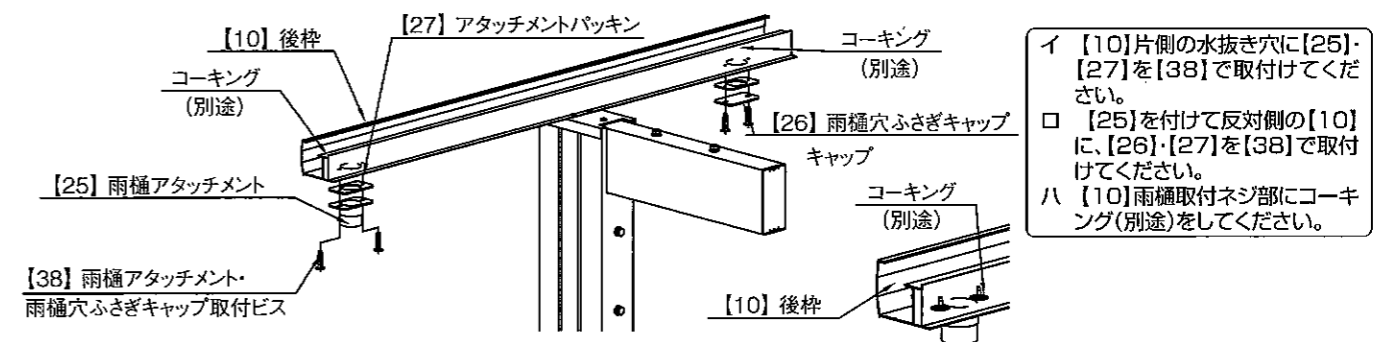
⑥ 垂木の取付け



イ 【8】・【10】の切欠きにコーキング(別途)をしてください。
ロ 【8】・【9】・【10】に【13】を【40】で取付けてください。

- ▲注意：【8】・【10】の切欠き部にコーキング(別途)を充てんしてください。
- ▲注意：【8】・【10】にコーキング(別途)後、【13】の取付方向に注意して【40】で取付けてください。
- ▲注意：【8】・【9】・【10】上面のV溝に【40】を取付けてください。

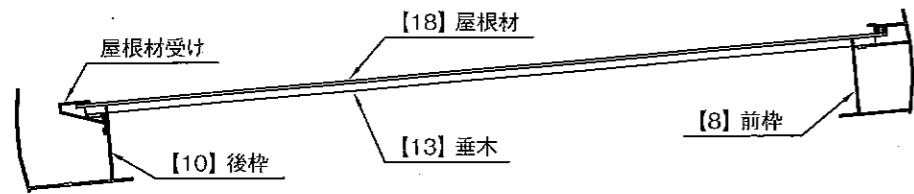
⑦ 雨樋アタッチメント・雨樋穴ふさぎキャップの取付け



イ 【10】片側の水抜き穴に【25】・【27】を【38】で取付けてください。
ロ 【25】を付けて反対側の【10】に、【26】・【27】を【38】で取付けてください。
ハ 【10】雨樋取付ネジ部にコーキング(別途)をしてください。

- ▲注意：【10】雨樋取付ネジ部にコーキング(別途)を充てんしてください。

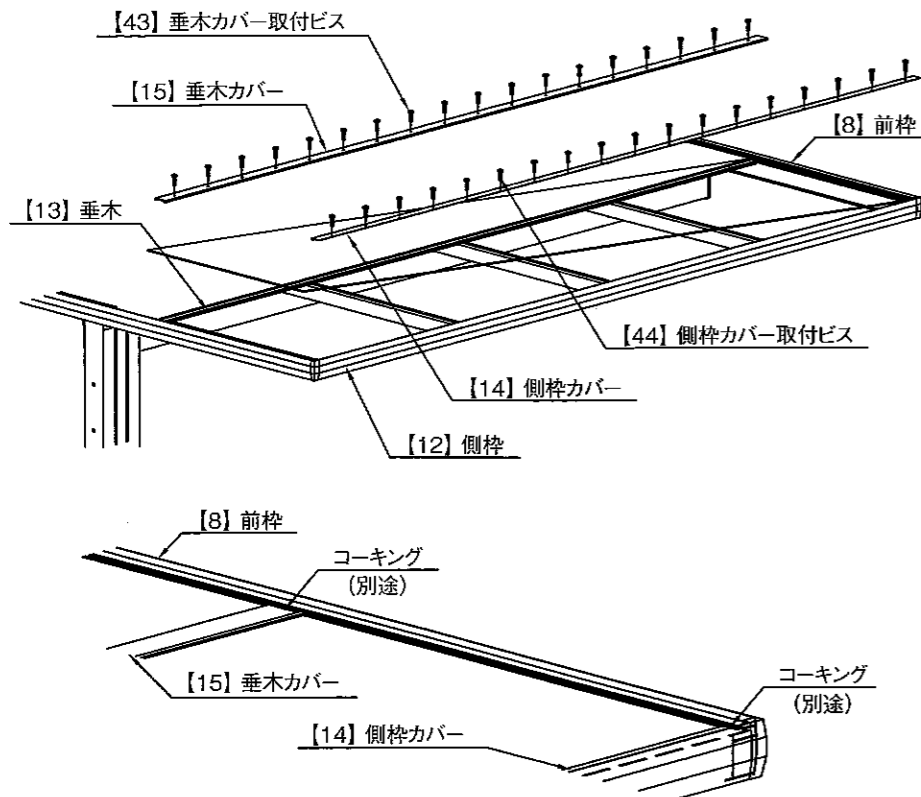
⑧ 屋根材の取付け



イ 【18】を【8】に差込み、屋根材受けに差込んでください。

- ▲ 注意：【13】部ののみ込み寸法は、左右均等にしてください。
- ▲ 注意：【18】は必ず裏表を確認し、保護シートをはがしてから取付けてください。

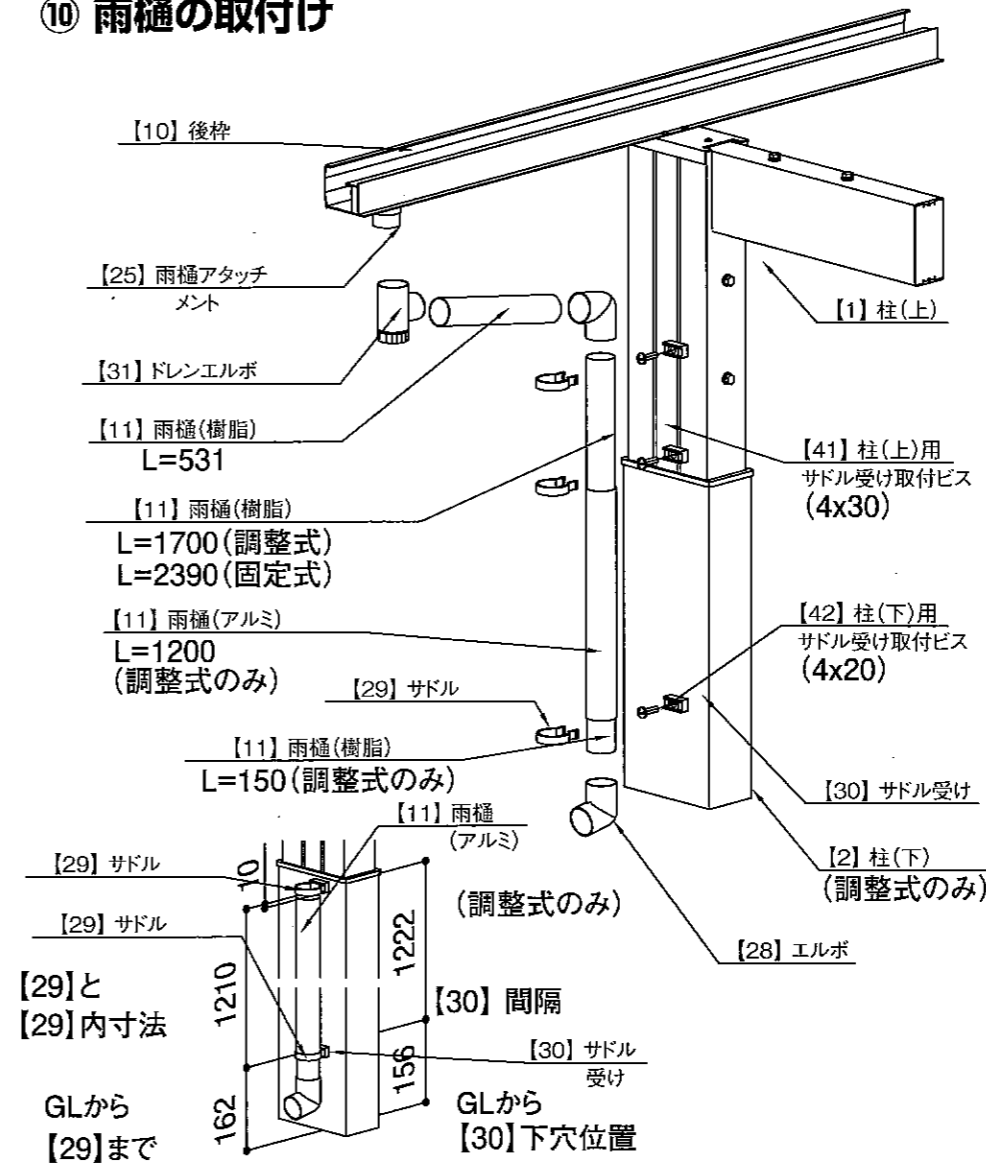
⑨ 側枠カバー・垂木カバーの取付け



イ 【14】を【8】に突き当てて、【8】側より【44】で取付けてください。
 ロ 【15】を【8】に突き当てて、【8】側より【43】で取付けてください。
 ハ 【8】と【14】の間と、【8】と【15】の間にコーキング(別途)してください。

- ▲ 注意：【12】と【14】・【13】と【15】がかみ合っている事を、確認してください。
- ▲ 注意：【8】と【14】の間と【8】と【15】の間に、しっかりとコーキング(別途)をしてください。

⑩ 雨樋の取付け



調整式

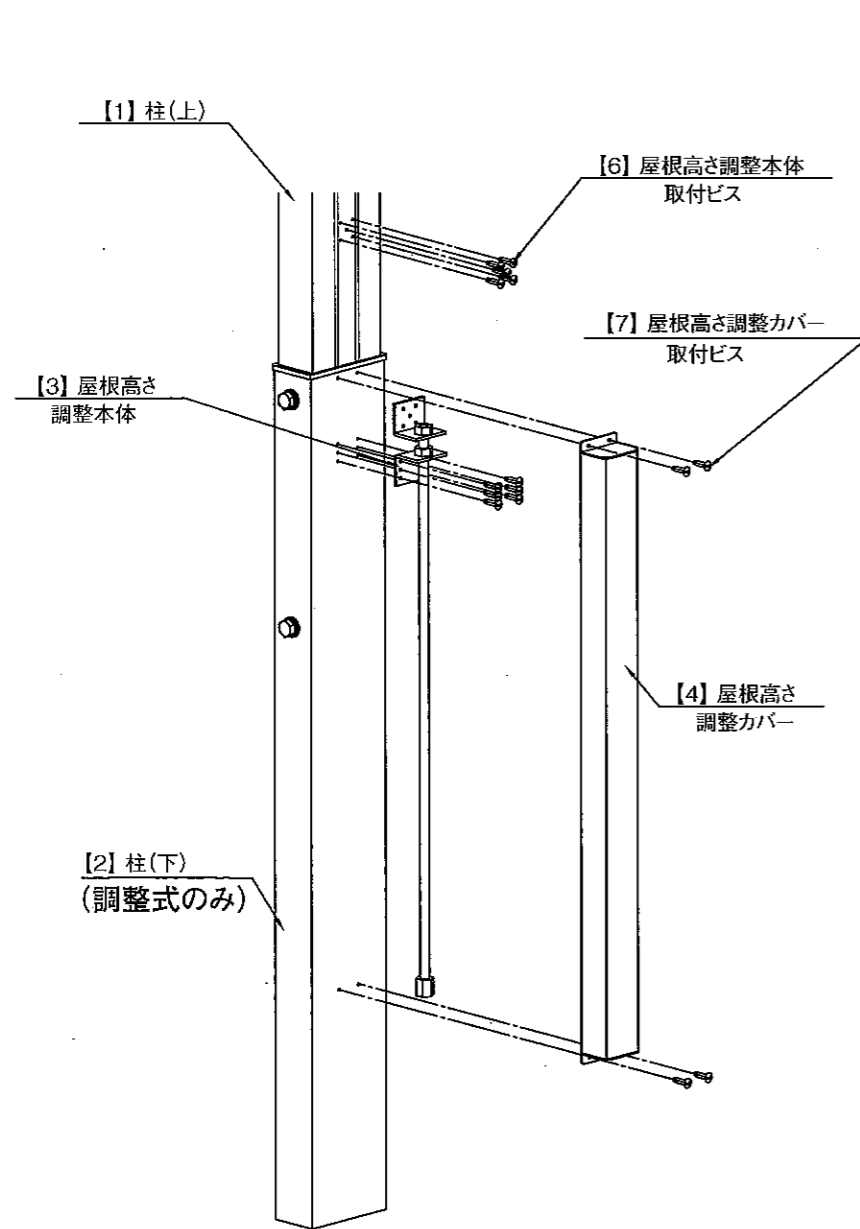
- イ 【11】(樹脂)を各寸法で切断してください。
- ロ 【10】に取付けた、【25】に【31】を【32】で取付けてください。
- ハ 【2】下部に、GLより156mmピッチ1222mmの位置に ϕ 3.5の下穴を開けてください。
- ニ 【30】を、【1】側は【41】で【2】下部に開けて下穴に、【30】を【42】で取付けてください。
- ホ 上側【11】(樹脂)L=1700・【28】を【32】で取付けてください。
- ヘ 【11】(樹脂)L=150 は、【11】(アルミ)をコーキング(別途)で取付けてください。

固定式

- イ 【11】(樹脂)を各寸法で切断してください。
- ロ 【10】に取付けた、【25】に【31】を【32】で取付けてください。
- ハ 【11】に、【30】取付位置に合わせて ϕ 3.5の下穴を開けてください。
- ニ 【30】を、【1】上部は【41】で【1】下部に開けて下穴に、【30】を【42】で取付けてください。
- ホ 【11】(樹脂)L=2390・【28】を【32】で取付けてください。

- ▲ 注意：【2】下部に、GLより156mmピッチ1222mmの位置に ϕ 3.5の下穴を開けてから【30】を【42】で取付けてください。(調整式のみ)
- ▲ 注意：【11】(アルミ)は、【30】で上下をはさみつける形で【2】に取付けてください。(調整式のみ)
- ▲ 注意：【11】(樹脂)L=150と【11】(アルミ)は、コーキング(別途)で取付けてください。(調整式のみ)
- ▲ 注意：【30】取付位置は、【1】溝中心に【2】はV溝に取付けてください。
- ▲ 注意：【30】下取付位置はGLより150mm以内の高さに取付けてください。
- ▲ 注意：【30】取付位置を間違えると屋根高さ調整が出来なくなります。(調整式のみ)
- ▲ 注意：【30】取付ビス長さは、【1】側は長く【2】側は短いので注意してください。
- ▲ 注意：【11】(アルミ)に【11】(樹脂)入り込みは、H:2000 1044mm H:2400 644mm H:2800 244mm(参考)になります。(調整式のみ)

⑪ 屋根高さ調整本体・屋根高さ調整カバーの取付け



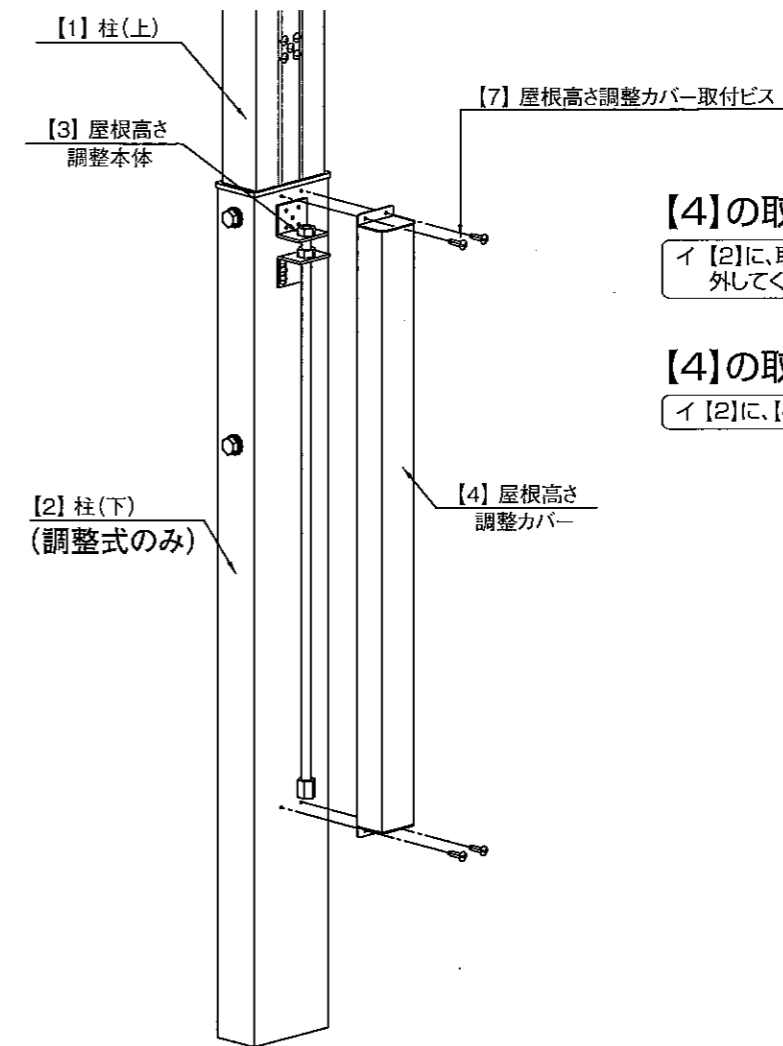
イ [2]に、[3]を[6]で取付けてください。
 □ [2]に、[4]を[7]で取付けてください。
 ハ [1]に、[6]を取付けてください。

▲ 注意： [3]が[4]の中にしっかり入って入る事を確認してください。

■ 屋根高さの調整方法（調整式のみ）

- ▲ 注意： 屋根高さを調整しますと、柱にスリキズ等が発生することがありますので、御施主様に了解を得てから屋根高さ調整を行なってください。
- ▲ 注意： 屋根上に雪等を下ろしてから、屋根高さを調整してください。
- ▲ 注意： 風が吹いている時は、屋根高さを調整しないでください。

⑫ 屋根高さ調整カバーの取外し及び取付け



【4】の取外し

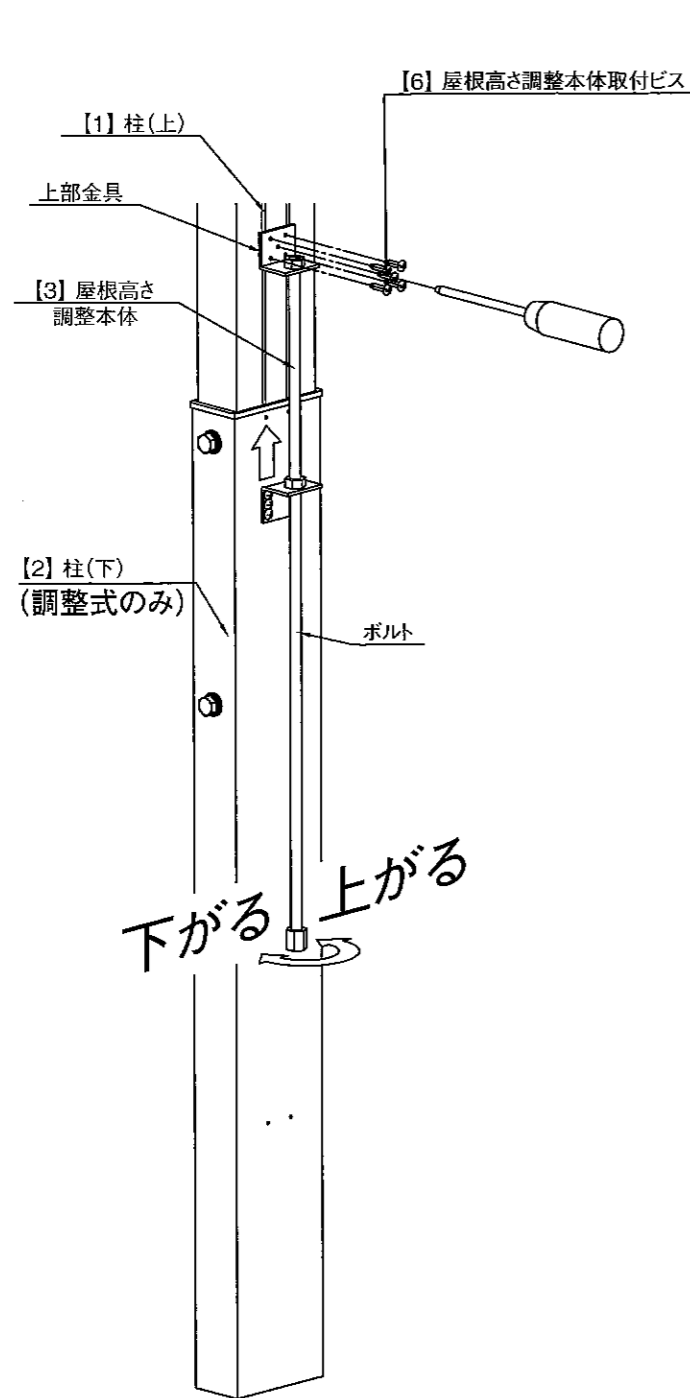
イ [2]に、取付いている[7]を取外して【4】を取外してください。

【4】の取付け

イ [2]に、【4】を[7]で取付けてください。

- ▲ 注意： 【7】取付け・取外しは、インパクトドライバーで作業をしないで手で作業してください。
- ▲ 注意： 【4】を取付る場合、【3】が【4】の中にしっかり入って入る事を確認してください。
- ▲ 注意： 取外した【7】のビスは、屋根高さ調整後取付けますのでなくさないようにしっかりと保管してください。

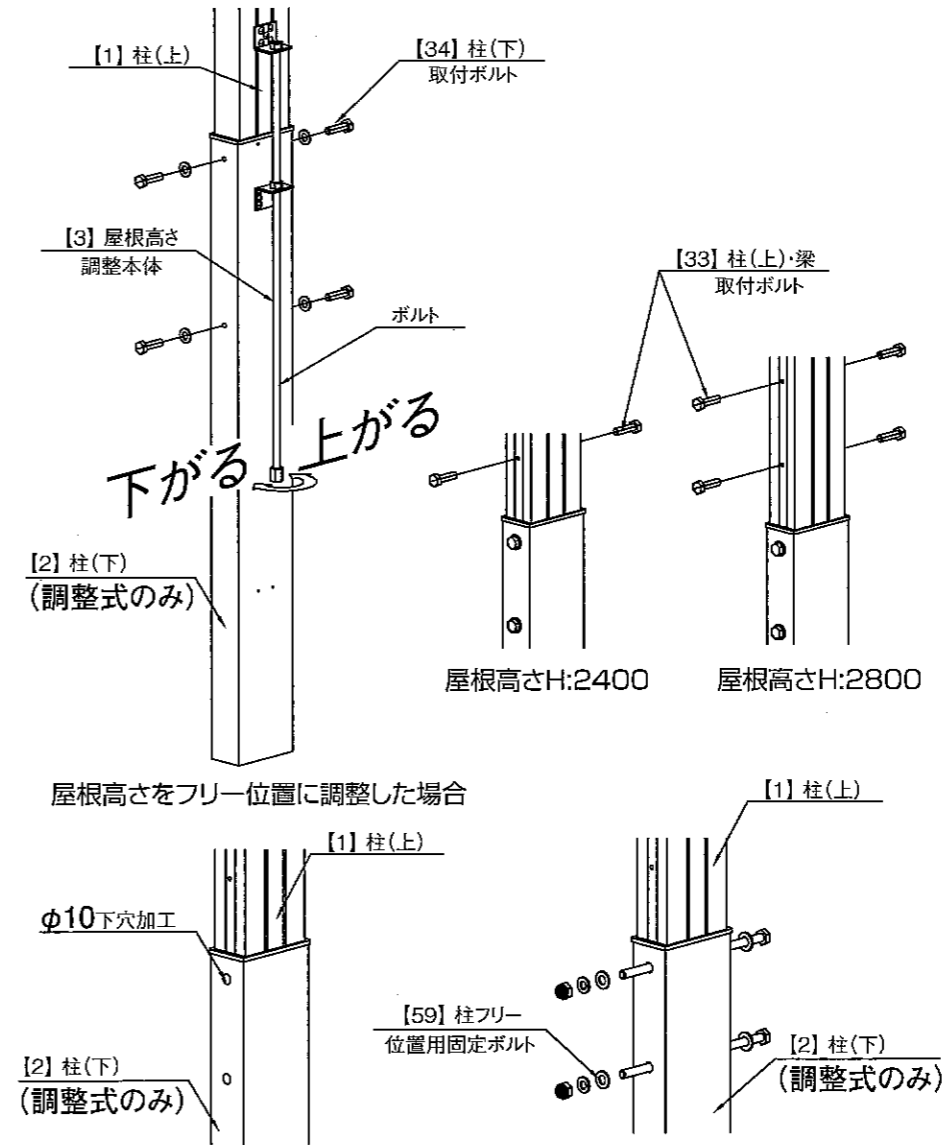
⑬ 屋根高さ調整本体の取付け



- イ 【1】に、取付けてある【6】(穴ふさぎ)を取外してください。
- ロ 【3】ボルトを回転させて、【3】上部金具をあげてください。
- ハ 【6】取外した穴に、【3】上部金具を【6】で確実に取付けてください。

- ▲ 注意：【6】取付け・取外しは、インパクトドライバーで作業をしないで手で作業してください。
- ▲ 注意：【3】上部金具を【6】ビスで確実に取付けてください。

⑭ 屋根高さ調整



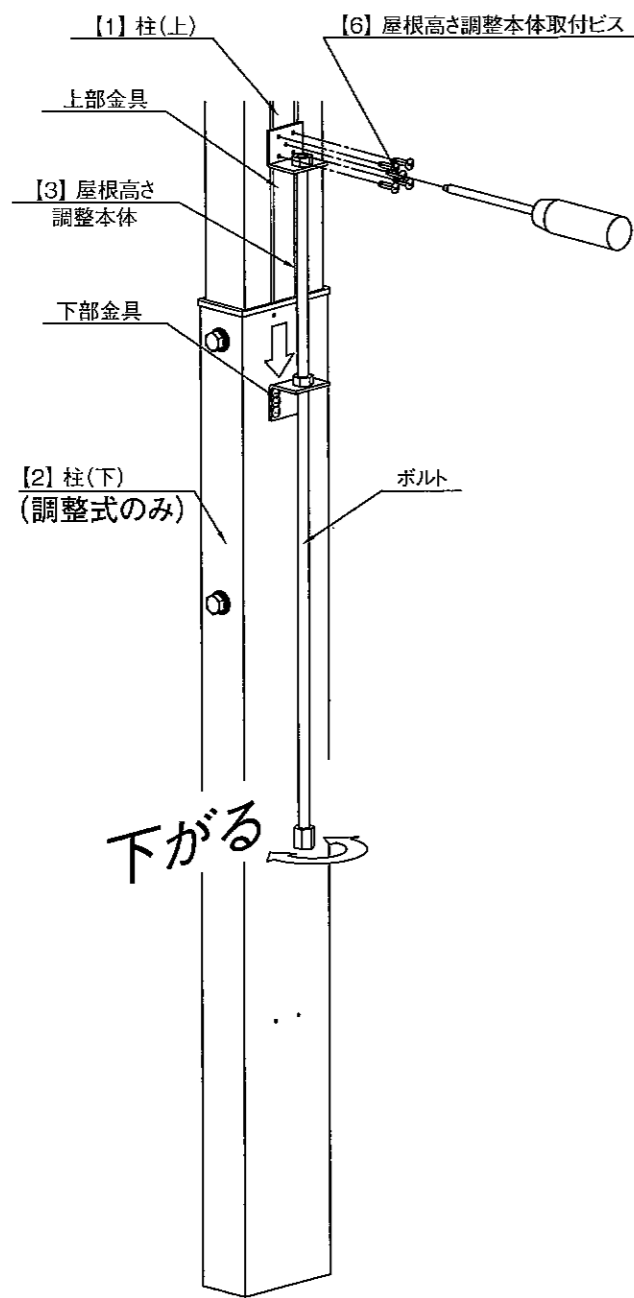
- イ H:2400,H:2800は、【1】下部に取付けた、【33】を外してください。
- ロ 【1】に取付けた【3】上部金具が、しっかりと取付いている事を確認してください。
- ハ 【2】に取付けてある【34】を外してください。
- ニ 【3】ボルトを回転させて、屋根高さを調整してください。
- ホ 屋根高さ調整後、【2】に【34】を取付けてください。
- ヘ 【1】下部に取付孔がある場合は、取付孔に【33】を取付けてください。

屋根高さをフリー位置に固定したい場合

- イ H:2400,H:2800は、【1】下部に取付けた、【33】を外してください。
- ロ 【1】に取付けた【3】上部金具が、しっかりと取付いている事を確認してください。
- ハ 【2】に取付けてある【34】を外してください。
- ニ 【3】ボルトを回転させて、屋根高さを調整してください。
- ホ 屋根高さ調整後、【2】取付穴から【1】下部にφ10下穴加工をして、【59】で【1】・【2】を固定してください。
- ヘ 【1】下部に取付孔がある場合は、取付孔に【33】を取付けてください。

- ▲ 注意：H:2400,H:2800の場合は、【1】下部に【33】が取付いていますので、【33】を取外し後に屋根高さを調整してください。
- ▲ 注意：屋根高さをフリー位置に固定したい場合は、φ10で下穴加工をしてから【59】で【1】・【2】を固定してください。
- ▲ 注意：【3】上部金具が【1】にしっかりと固定している事を確認後、【34】を外してください。
- ▲ 注意：屋根高さを調整する前に、【3】ボルト等に潤滑材を塗ってから屋根高さを調整してください。
- ▲ 注意：柱の調整は左右の柱で調整しますが、片方の柱だけを50mm以上上げないでください。左右バランスよく上げてください。

⑮ 屋根高さ調整本体の取外し



イ [1]に取付けてある[3]上部金具の[6]を外してください。
 ロ [3]上部金具を[3]下部金具まで[3]ボルトを回転させて下げてください。
 ハ 外した[6]を、[1]の[3]上部金具を取外した孔に[6]を取付けてください。

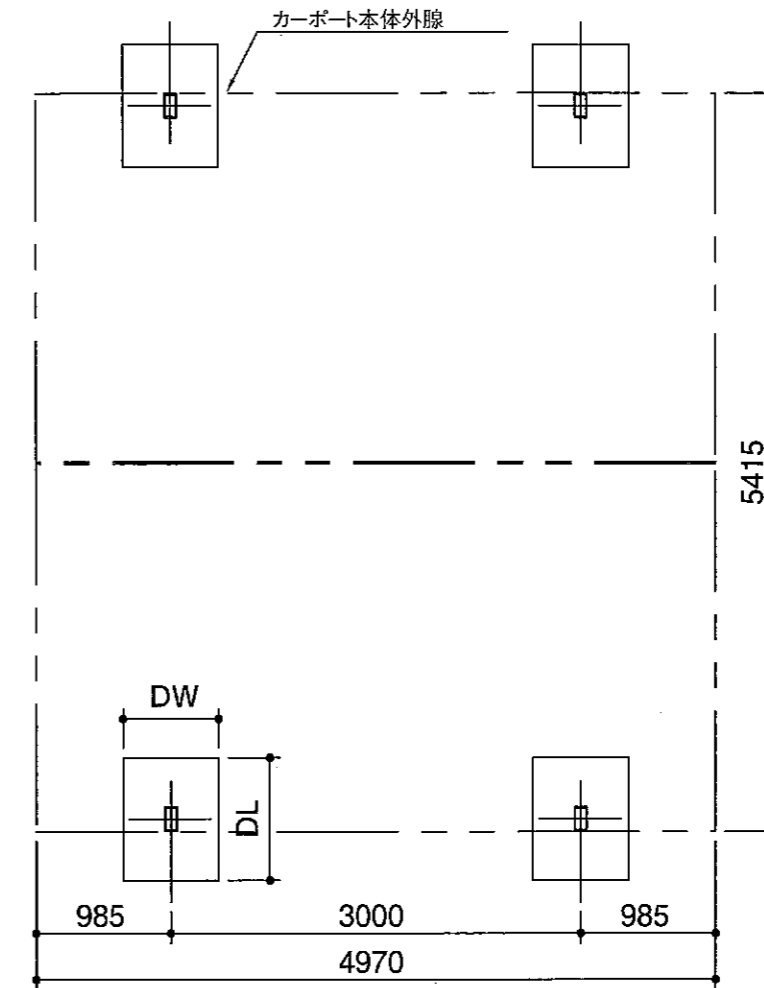
- ▲ 注意：[6]取付け・取外しは、インパクトドライバーで作業をしないで手で作業をしてください。
- ▲ 注意：[3]上部金具を[3]下部金具まで移動させてください。

⑯ 屋根高さ調整カバーの取付け

⑫ [4]の取付けを参照して取付けてください。

■M合掌の施工方法

⑰ 基礎の施工

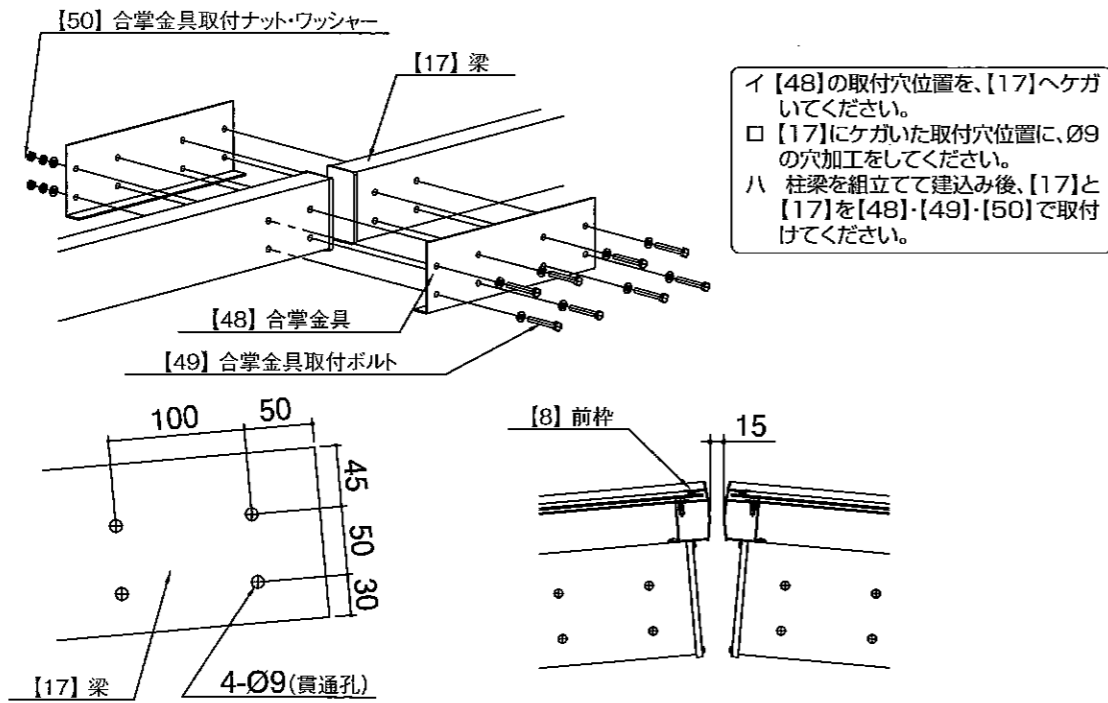


柱の埋込み位置を出して基礎穴を掘ってください。

DL		DW	
土間なし	土間コンクリート	土間なし	土間コンクリート
700	300	900	400

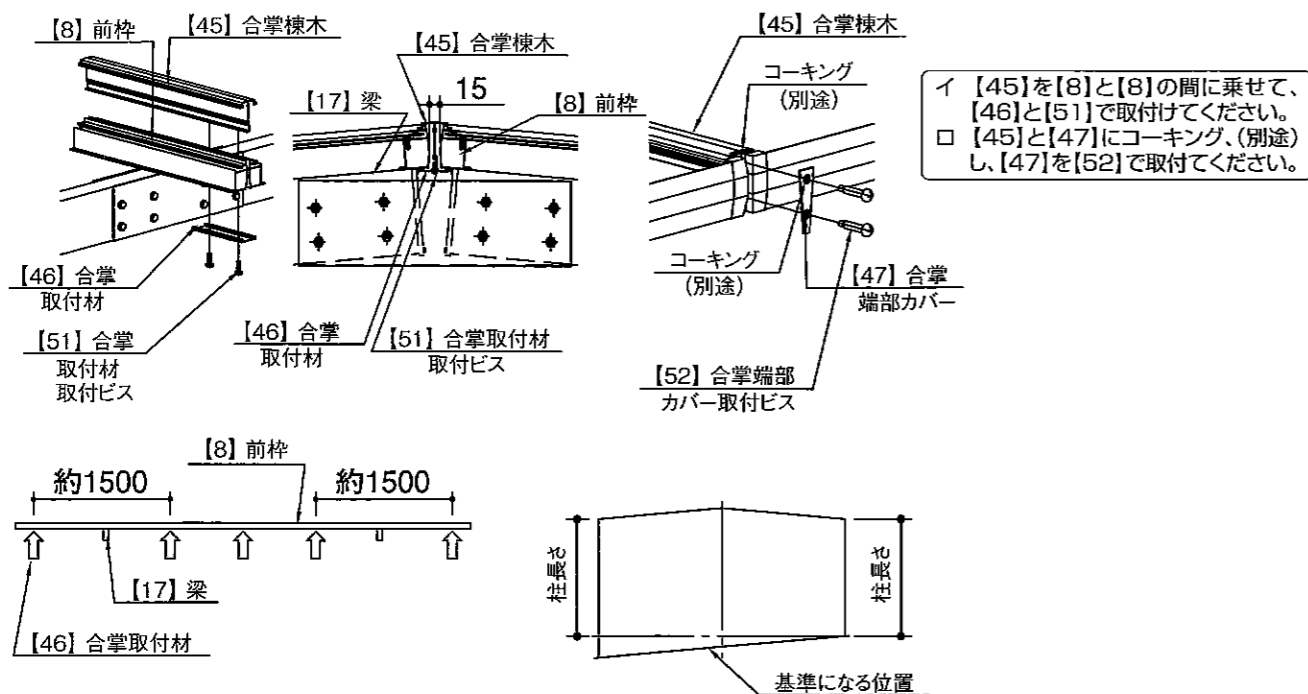
- ▲ 注意：柱の移動は±100mm以内ですが、柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

⑱ 合掌金具の組立



- ▲ 注意：合掌部以外の取付けは、■基本の施工方法を参照してください。
- ▲ 注意：[8]と[8]間隔は、15mmであることを確認してください。

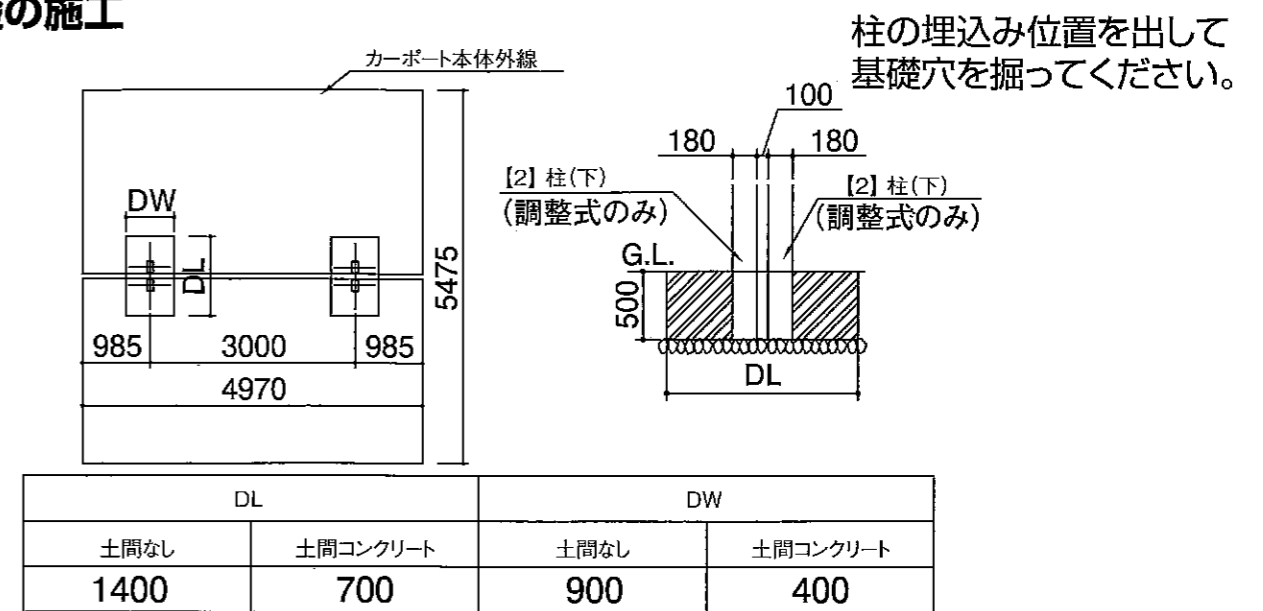
⑲ 合掌垂木の取付け



- ▲ 注意：柱は、基準になる位置から同じ高さとしてください。
[45]に水がたまり、漏水するおそれがあります。

■ Y合掌の施工方法

⑳ 基礎の施工



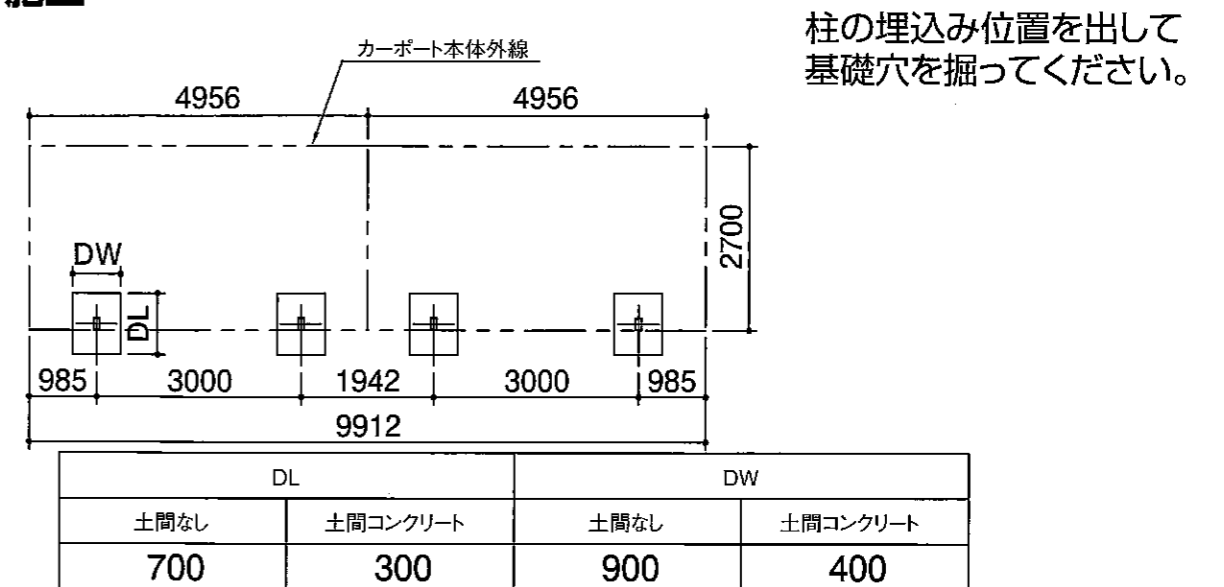
- ▲ 注意：基礎構造については、■基本の施工方法を参照してください。
- ▲ 注意：注意：柱の移動は±100mm以内ですが、柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

㉑ 本体の組立

本体の組立は、■基本の施工方法を参照にして組立てください。

■ 縦連棟の施工方法

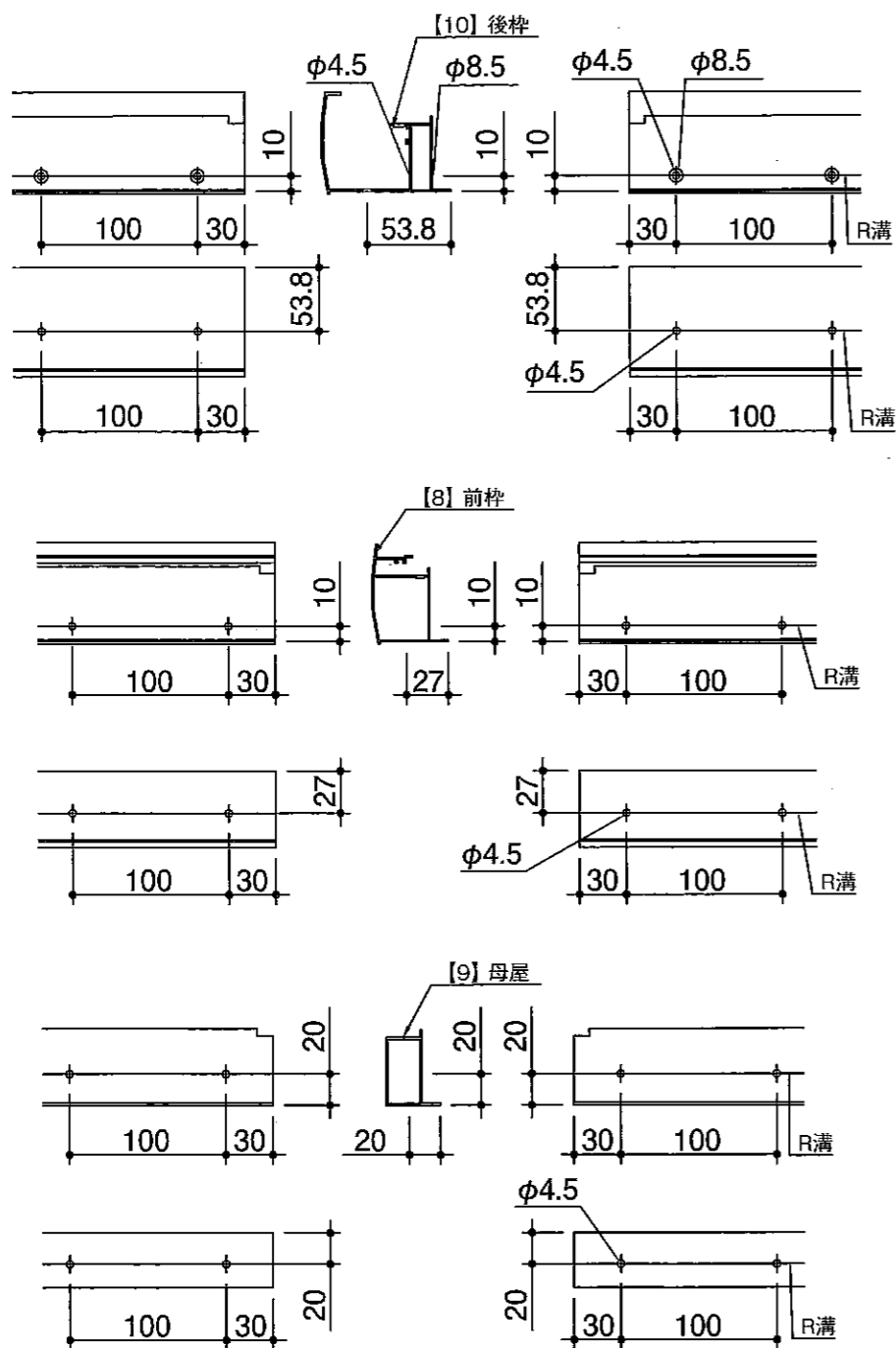
㉒ 基礎の施工



- ▲ 注意：基礎構造については、■基本の施工方法を参照してください。
- ▲ 注意：柱の移動は±100mm以内ですが、柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

23 連結部の加工

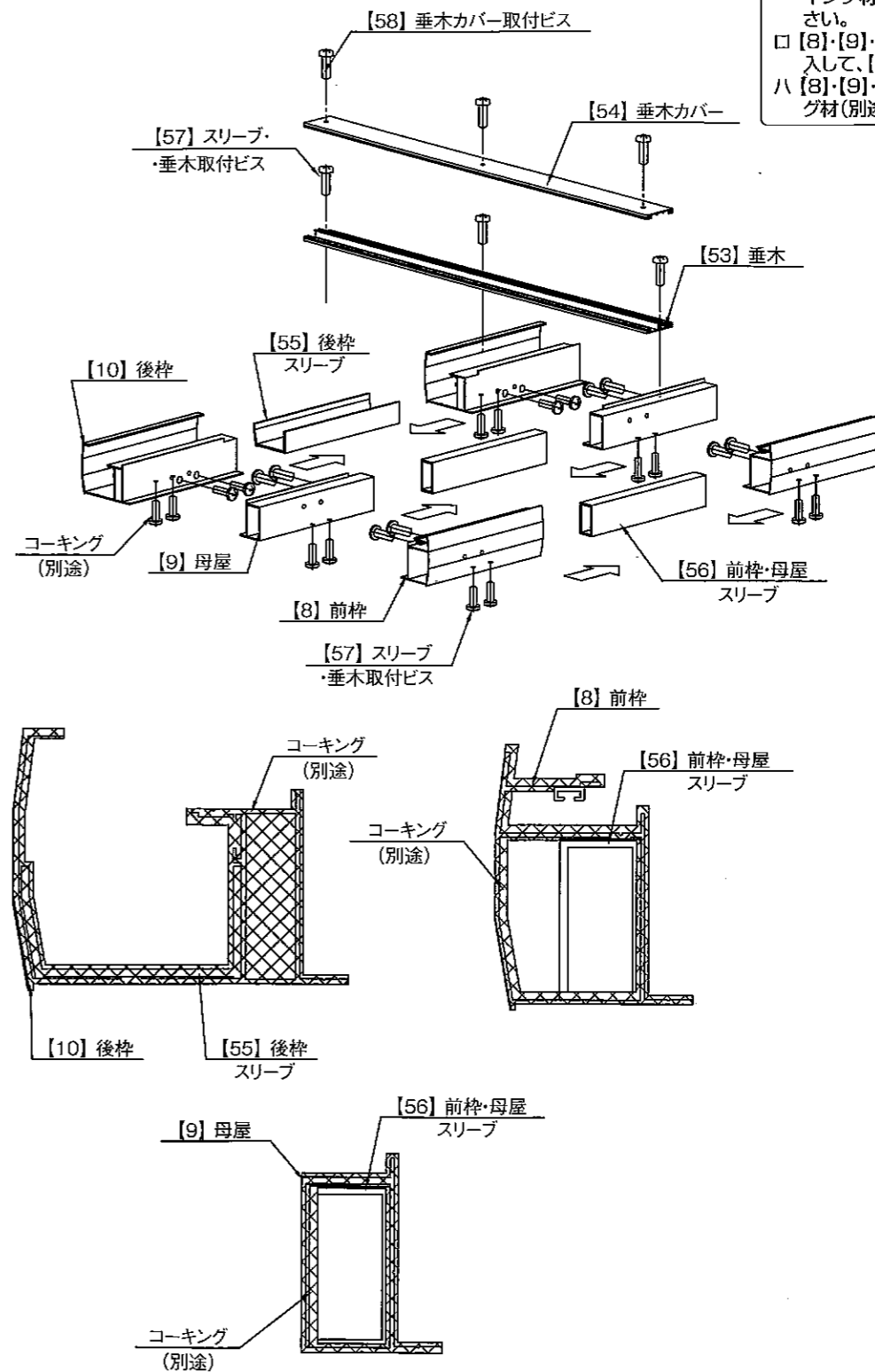
イ [8]・[9]・[10]の連棟側を、穴加工してください。



▲注意：【9】側面の穴加工は、フィン側に穴加工をしてください。

24 連結部の連結

イ [55]を【10】取付け【57】に、コーキング材(別途)を充てんしてください。
 ロ [8]・[9]・[10]に、【55】・【56】を挿入して、【57】で取付けてください。
 ハ [8]・[9]・[10]と【57】に、コーキング材(別途)を充てんしてください。



▲注意：連棟部分以外の組立は、■基本の施工方法を参照してください。